

Ⅱ．雑草防除のてびき（令和 8 年度版）

◎ 雑草防除

1. 水稻の雑草防除	96
〔Ⅰ〕 水稻除草剤別使用方法	
1. 除草効果を高めるための耕種的な雑草の抑制法	97
2. 薬剤による防除法	97
1) 移植栽培	
(1) 初期剤	98
(2) 初中期一発剤	99
(3) 中後期剤	110
(4) その他剤	114
2) 直播栽培	116
〔Ⅱ〕 栽培別除草剤使用上の一般的留意事項	
1. 除草剤使用上の共通の注意事項	117
2. 移植栽培（主として稚苗）	117
3. 直播栽培における雑草防止の留意事項	117
4. 優占草種と除草剤使用体系について	118
5. 平年における佐賀県平坦での除草剤処理時期と雑草発生状態	118
6. 水稻除草剤の田植え同時処理について	118
〔Ⅲ〕 各除草剤の薬害症状	119
〔Ⅳ〕 スルホニルウレア系（S U 剤）除草剤の抵抗性雑草について	121
〔Ⅴ〕 耕起前、休耕田、畦畔堤塘並びに農耕地周辺雑草防除	
(1) 除草剤	123
(2) 抑草剤	124
〔Ⅵ〕 参考資料（倒状軽減剤）	125
2. 大豆の雑草防除	
(1) 大豆は種前の雑草防除	129
(2) 大豆は種後の雑草防除	131
(3) 大豆生育期の雑草防除	133
3. 果樹の雑草防除	
〔Ⅰ〕 かんきつ園雑草防除	135
〔Ⅱ〕 落葉果樹園雑草防除	140
4. 茶の雑草防除	144

◎ 植物生長調整剤使用方法

1. かんきつ植物生長調整剤	146
2. 落葉果樹植物生長調整剤	151

◎ 雑 草 防 除

1. 水 稻 の 雑 草 防 除 [\[目次に戻る\]](#)

除草剤の使用に当たって

耕地における雑草発生の多少は、作物の収量を大きく左右し、これまでの試験結果からみれば無除草栽培により減収する場合もある。

除草剤の普及にともない従来 10 アール当り除草労力は水稻作で 40 数時間も必要としたが、現在では数時間となり同時に栽培方法までも変えることができた。(直播、機械移植など)

このように、作物栽培に大きく貢献している除草剤であるが、どの雑草も除草できる万能薬ではなく、除草剤だけで防除を続けていると雑草の優占種に変化がみられ、除草効果が低下してゆく。この例として最近、アゼナ、コナギ、ミゾハコベ、ホタルイ、ミズガヤツリ、藻類などの増加がある。

また除草剤は、農薬登録によって、安全性について充分検討されているが、一部には人畜毒性や魚毒性のあるものもあり使用に当たっては注意が必要である。

そこで、除草剤使用に当たっては、その性質を十分知り、対象とする雑草や作物に対して適切に使用すれば問題は生じないが、使用法をまちがえると除草効果が劣ったり、作物に薬害がみられ、場合によっては、周辺の作物や水産動植物などにも被害をあたえることがあることから、除草効果を高めるためには、耕種的防除方法とともに使用基準並びに使用上の注意を遵守して、作物の薬害と他の部門に問題が生じないよう使用しなければならない。

特に水産動植物に対しては、通常の使用方法では影響の少ない(魚毒性B類)除草剤でも使用時期が梅雨期にあたり、一時に広範囲に使用するときには、影響が懸念されるので水管理など十分に注意する。

〔Ⅰ〕 水稻除草剤別使用方法 [〔目次に戻る〕](#)

1. 除草効果を高めるための耕種的な雑草の抑制法

- 1) 生ワラ、麦稈等を施用したほ場では、ディスクローラ等を用いて完全埋没に努める。
- 2) ほ場への入水は、雑草の発芽を促進させるので、必要以上に早く行わない。
- 3) 入水後は速やかに耕起代かきを行い、植え付け精度が低下しない限り、移植は早めに行う。
- 4) 代かきは丁寧に行った後、湛水状態を保ち、雑草発生の抑制に努める。

2. 薬剤による防除法

※除草剤全体にかかる部分での注意事項

- 移植後の除草剤施用に当たっては、雑草の発生状況に注意するとともに、ラベルに記載された事項を守り、除草効果の確保に努める。
- 農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を7日間以上とする。また、止水期間中については、農薬の流出を防止するとともに、入水は静かに行う等、適切な水管理や畦畔整備等の措置を講じるよう努めること。
- 除草効果を高めるため、使用時期の範囲内で、使用時期に掲載しているノビエの葉齢を0.5葉早めに処理することが望ましい。

例)「移植後5日～ノビエ2.5葉期」とある場合は、ノビエの2葉期までに使用する。

1) 移植栽培

※ 農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とする。
また、止水期間中については、農薬の流出を防止するとともに、適切な水管理や畦畔整備等の措置を講じるよう努めること。

(1) 初期剤 [【目次に戻る】](#)

初期除草剤においては、代掻きから移植前に登録があるものがあるが、佐賀県においては、環境にも配慮し、田植え前の使用を控えることとしており、「てびきにおける使用時期」においては移植後のみの使用時期について掲載しています。

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
1	アルハーブフロアブル (テニクロール4.0%)		○		①雑草発生前～始期に散布する。 ②一年生広葉雑草の多発田では効果にふれが出るので使用をさける。
2	クミアイサキドリEW (ペンタキサゾン4.0%) (ブタクロール12.0%)		○	○	①雑草発生前～始期に散布する。 ②苗に付着すると軽微な葉害を生じることがある。 ③苗が水没するような深水状態では葉鞘部に葉害が生じる場合がある。 ④直播水稻に使用する場合、出芽時に湛水条件になると葉害を生じる。 ⑤レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
3	サンバード粒剤 (ビラゾレート10.0%)			○	①水が切れると効果が低下するので、田面の露出をさける。 ②散布後の落水、かけ流しは絶対避ける。 ③雑草の発生前～始期にかけて処理すると効果が高い。 ④直播水稻のは種時に通常の湛水状態より水を落として散布する場合は、散布後速やかに通常の湛水状態（水深3～5cm）にする。
4	スタメンフロアブル (イプフェンカルバツ3.9%)				①雑草発生前～始期に散布する。
※ 5	先陣1キロ粒剤 (ジメタトリン0.3%) (ビラゾレート1.5%)	○	○		①雑草発生前～始期に散布する。 ②レンコンなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は注意する。
6	パデホープ1キロ粒剤 (グイムロン15.0%) (ブレチラクロール3.0%)				①雑草発生前～始期に散布する。 ②コナギ多発田での使用は効果が劣ることがあるので、コナギに有効な剤と体系で使用する。
7	ベクサーフロアブル (ペンタキサゾン2.9%)		○		①雑草発生前～始期に散布する。 ②苗が水没するような深水状態では葉鞘部に葉害が生じる場合がある。
8	ホクコーダッシュワン フロアブル (グイムロン22.9%) (ペンタキサゾン3.8%)		○		①雑草発生前～始期に散布する。 ②レンコン等の隣接田で使用する場合は十分注意する。
9	マーシット1キロ粒剤 (ブタクロール10.0%)		○		①雑草発生前～始期に散布する。 ②コナギ多発田では効果が劣ることがあるので、早めに使用する。
10	ホクコーユニハーブ フロアブル (ペンタキサゾン20.0%) (ブレチラクロール5.0%)		○		①雑草発生前～始期に散布する。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。

使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

(2) 初中期一発剤 [【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
1	アカツキ 1 キロ粒剤 (フェノキサスルホン2.0%) (フェンキトリオン3.0%) (メタゾスルフロン1.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、ミズガヤツリ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
2	アクシズMX 1 キロ粒剤 (ピリフタリト2.4%) (メタゾスルフロン0.8%) (メトリオン0.9%)			○	①移植後7日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ4葉期) ②オモダカは矢じり葉1葉期まで、ヘラオモダカは3葉期まで、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ※は4葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまでが散布適期である。※田植前・は種前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
3	アップレZ 1 キロ粒剤 (ピラクロニル2.0%) (プロピリスルフロン0.9%) (プロモフチト9.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ミズアオイは1葉期まで、ホタルイは4葉期まで(ただし、直播水稲は2葉期まで)、ウリカワは3葉期まで(ただし、直播水稲は2葉期まで)、ヘラオモダカは3葉期まで、ミズガヤツリは4葉期まで(ただし、直播水稲は3葉期まで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカは発生前から発生始期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
4	アップレZフロアブル (ピラクロニル3.7%) (プロピリスルフロン1.7%) (プロモフチト16.8%)	○ ※移植 のみ		○	①移植後3日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ミズアオイは1葉期まで、ホタルイ、ミズガヤツリは4葉期まで(ただし、直播水稲は3葉期まで)、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカは発生前から発生始期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、生育に隣接田で使用する場合は十分注意する。
5	アップレZ ジャンボ (ピラクロニル2.0%) (プロピリスルフロン0.9%) (プロモフチト9.0%)	○ ※移植 のみ	-	○	①移植後3日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ミズアオイは1葉期まで、ホタルイは4葉期まで、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカは発生前から発生始期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ナガエツルノゲイトウは再生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前から発生始が散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
6	アップレZ 400FG (ピラクロニル2.0%) (プロピリスルフロン0.9%) (プロモフチト9.0%)	○ ※移植 のみ	-	○	
7	アバンティ (カウンシル エナジー) 1 キロ粒剤 (トリアフェモン0.5%) (フェンキトリオン3.0%) (フェントラサミド3.0%)		○	○	①雑草の発生前～ノビエ3.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ3.5葉期) ②ヘラオモダカは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ウリカワは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、キシウズズメヒエは再生茎3葉期まで、エゾノサヤヌカグサは3葉期まで、シズイは草丈3cmまで、ミズアオイ、コナギは3葉期までが散布適期である。 ③葉害を生じるおそれがあるので、後作物としてなす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しない。 ④れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
8	アピログロウMX 1 キロ粒剤 (ブ ^レ チラクロール4.5%) (ピ ^レ リフカイト1.5%) (ピ ^レ ラゾ ^ス スルフロニエチル0.3%) (メソトリオン0.9%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ホタルイは3葉期まで、ヘラオモダカは3葉期まで、ミズガヤツリは3葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
9	アピログロウMX ジャンボ (ブ ^レ チラクロール11.25%) (ピ ^レ リフカイト3.75%) (ピ ^レ ラゾ ^ス スルフロニエチル0.75%) (メソトリオン2.25%)	○ ※移植 のみ	-	○	①移植後3日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ウリカワは3葉期まで、ホタルイは3葉期まで、ヘラオモダカは3葉期まで、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、クログワイ、オモダカは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は生育を阻害するおそれがあるので十分注意する。
10	アピログロウMX エアー粒剤 (ブ ^レ チラクロール11.25%) (ピ ^レ リフカイト3.75%) (ピ ^レ ラゾ ^ス スルフロニエチル0.75%) (メソトリオン2.25%)	○ ※移植 のみ	-	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈20cmまで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、キシウスズメノヒエは再生茎2葉期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意する。
※ 11	イッセン 1 キロ粒剤 (ピ ^レ リミルファン0.75%) (フェントラサ ^ミ 3.0%) (ブ ^レ モフ ^チ ト9.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈20cmまで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、キシウスズメノヒエは再生茎2葉期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意する。
12	イネリーグ 1 キロ粒剤 (クロム ^レ ップ4.5%) (テフルトリオン3.0%) (フェントラサ ^ミ 3.0%)		○	○	①雑草発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～2.5葉期) ②ホタルイは3葉期まで、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前まで、シズイは草丈3cmまでが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意する。
13	ウィニングラン1キロ粒剤 (イ ^ブ フェンカルバ ^ゾ ン2.5%) (ブ ^レ モフ ^チ ト9.0%) (ペン ^ス スルフロニエチル0.75%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～2.5葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、ウリカワ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③レンコンなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
14	ウィニングランフロアブル (イ ^ブ フェンカルバ ^ゾ ン5.0%) (ブ ^レ モフ ^チ ト18.0%) (ペン ^ス スルフロニエチル1.4%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワ、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③レンコンなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
15	ウィニングランジャンボ (イ ^ブ フェンカルバ ^ゾ ン5.0%) (ブ ^レ モフ ^チ ト18.0%) (ペン ^ス スルフロニエチル1.5%)	○ ※移植 のみ	-	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～2.5葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、ウリカワ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③レンコンなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
16	エンペラー 1 キロ粒剤 (ピラクロニル2.0%) (ピリミナホックメチル0.75%) (フェンキトリオン3.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲出芽揃期～ノビエ3葉期) ②直播水稻で使用する場合、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、出芽が揃わない場合は、不完全葉期以降に散布する。 ③ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、クログワイは発生前、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、ナガエツルノゲイトウは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生盛期までが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
17	エンペラーフロアブル (ピラクロニル3.7%) (ピリミナホックメチル1.4%) (フェンキトリオン5.6%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲出芽揃期～ノビエ3葉期) ②直播水稻で使用する場合、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、出芽が揃わない場合は、不完全葉期以降に散布する。 ③ヘラオモダカ、エゾノサヤスカグサは2葉期まで、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、ナガエツルノゲイトウは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が使用適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
18	エンペラージャンボ (ピラクロニル8.0%) (ピリミナホックメチル3.0%) (フェンキトリオン12.0%)	○	-	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲出芽揃期～ノビエ3葉期) ②直播水稻で使用する場合、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、出芽が揃わない場合は、不完全葉期以降に散布する。 ③ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、ナガエツルノゲイトウは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ④れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
19	エンペラー豆つぶ250 (ピラクロニル8.0%) (ピリミナホックメチル3.0%) (フェンキトリオン12.0%)	○	-	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲出芽揃期～ノビエ3葉期) ②直播水稻で使用する場合、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、出芽が揃わない場合は、不完全葉期以降に散布する。 ③ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、ナガエツルノゲイトウは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ④れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
※ 20	カクシン 1 キロ粒剤 (イプフェンカルバゾン2.5%) (シメスルファゼット1.5%) (テフリトリオン2.5%)		○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ホタルイは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカはヘラ葉期まで、ミズガヤツリ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまでが散布適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
※ 21	カクシン薬粒 (イプフェンカルバゾン10.0%) (シメスルファゼット6.0%) (テフリトリオン10.0%)		-		①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 ②ホタルイは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカはヘラ葉期まで、ミズガヤツリ、クログワイ、コウキヤガラは草丈10cmまでが処理適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④吸湿性があるので、ぬれた手で作業したり、降雨等で薬剤がぬれないように注意し、開封後は早めに使用する。 ⑤藻や浮草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるため、使用はさける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
※ 22	カチドキ Z 1 キロ粒剤 (7-ロビリスルフロ0.9%) (フロビラウキシフェンゼル0.5%)	○	○		①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 ②ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈7cmまで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、ナガエツルノゲイトウは草丈10cmまでが散布適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
23	カチドキ Z 楽粒 (7-ロビリスルフロ3.6%) (フロビラウキシフェンゼル2.0%)		-		①移植後3日～ノビエ3葉期に散布する。 ②ホタルイは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈12cmまで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイ、コウキヤガラは草丈10cmまでが散布適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④吸湿性があるので、ぬれた手で作業したり、降雨等で薬剤がぬれないように注意し、開封後は早め使用する。 ⑤藻や浮草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるため、使用はさける。
24	カチボシ 1 キロ粒剤 5 1 (イブフェンカルバゾン2.5%) (テフルトリオン2.0%) (ベンスルフロメチル0.51%)	○ ※移植のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
25	カチボシ L フロアブル (イブフェンカルバゾン5.0%) (テフルトリオン4.0%) (ベンスルフロメチル1.0%)	○	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
26	カチボシ L ジャンボ (イブフェンカルバゾン8.3%) (テフルトリオン6.7%) (ベンスルフロメチル1.7%)	○	-	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで(直播水稻におけるホタルイは3葉期まで)、クログワイ、オモダカは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるため使用をさける。
27	ガツント Z 1 キロ粒剤 (テフルトリオン2.0%) (7-ロビリスルフロ0.9%)	○ ※移植のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②ホタルイは4葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ミズガヤツリは20cmまで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生期まで、オモダカは発生始期、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
28	ガツント Z ジャンボ (テフルトリオン10.0%) (7-ロビリスルフロ4.5%)	○	-	○	①移植後3日～ノビエ3.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②ホタルイは5葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワは5葉期まで、ミズガヤツリは15cmまで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生期まで、オモダカは矢じり葉2葉期まで、クログワイは20cmまで、コウキヤガラは発生前から発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので使用をさける。

[【目次に戻る】](#)

番 号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
29	ガンガン 1 キロ粒剤 (ピリミスルファン0.50%) (フェニキサスルホン2.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲で使用する場合、発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布する。 ③ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
30	ガンガンジャンボ (ピリミスルファン2.0%) (フェニキサスルホン8.0%)	○ ※移植 のみ	-	○	①移植後3日～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②直播水稲で使用する場合、発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布する。 ③ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になり、部分的な薬害や効果不足を生じるおそれがあるため、使用はさける。
31	ガンガン豆つぶ 250 (ピリミスルファン2.0%) (フェニキサスルホン8.0%)	○ ※移植 のみ	-	○	①移植後3日～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②直播水稲で使用する場合、発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布する。 ③ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になり、部分的な薬害や効果不足を生じるおそれがあるため、使用はさける。
32	キクトモ 1 キロ粒剤 (カフェンストロール3.0%) (ジメタメトリン0.60%) (クイムロン9.0%) (ベンゾピシクロン3.0%)	○	○		①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
33	サラブレッドGO 1 キロ粒剤 (イマゾスルホン0.9%) (オキサジクロメホン0.6%) (ピラクロニル1.0%) (プロモフチド9.0%)	○	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
34	サラブレッドGO 400FG (イマゾスルホン2.25%) (オキサジクロメホン1.5%) (ピラクロニル2.5%) (プロモフチド22.5%)	○	-	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、クログワイは発生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので使用をさける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
35	サラブレッドK A I 1 キロ粒剤 (イマゾスルホン0.9%) (オキサジクロメホン0.4%) (ヒラクロニル2.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
36	サラブレッドK A I フロアブル (イマゾスルホン1.7%) (オキサジクロメホン0.57%) (ヒラクロニル3.8%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは2葉期まで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
37	サラブレッドK A I ジャンボ (イマゾスルホン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (ヒラクロニル5.0%)		-	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは2葉期まで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
38	サラブレッドK A I 4 0 0 F G (イマゾスルホン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (ヒラクロニル5.0%)		-	○	④藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので使用をさける。
39	ジェイソウル 1 キロ粒剤 (シクロピリモレート3.0%) (ヒラゾレート6.0%) (フェントラサミド3.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
40	ジェイソウルフロアブル (シクロピリモレート5.5%) (ヒラゾレート11.0%) (フェントラサミド4.5%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ(移植水稲)、ミズガヤツリ(移植水稲)、ウリカワ(移植水稲)は3葉期まで、ホタルイ(直播水稲)、ミズガヤツリ(直播水稲)、ヘラオモダカ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ウリカワ(直播水稲)は発生始期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
41	ジェイソウルジャンボ (シクロピリモレート6.7%) (ヒラゾレート13.3%) (フェントラサミド6.7%)	○ ※移植 のみ	-	○	①移植後1日～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ヘラオモダカ(移植水稲)、ミズガヤツリ(移植水稲)は3葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカ(直播水稲)、ミズガヤツリ(直播水稲)、ウリカワ(移植水稲)、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ウリカワ(直播水稲)は発生始期まで、オモダカは発生前～発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるので使用をさける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
42	シンゲキ1キロ粒剤 (フェンキトリオン3.0%) (フェントラサミド3.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、オモダカ、コウキヤガラは発生始まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
43	シンゲキジャンボ (フェンキトリオン12.0%) (フェントラサミド12.0%)		-	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカは1葉期まで、オモダカ、コウキヤガラは発生始まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、使用はさける。
44	ストレンクス1キロ粒剤 (テフリルトリオン3.0%) (トリアフェモン0.50%) (フロルビラウキシフェンベンジール 0.45%)			○	①移植後5日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ4葉期) ②マツバイは7葉期まで、ホタルイは4葉期まで、ヘラオモダカは5葉期まで、ミズガヤツリは草丈25cmまで、ウリカワは4葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、クログワイは草丈20cmまで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、コウキヤガラは発生始期から草丈30cmまで、キシユウスズメノヒエは再生茎3葉期まで、エゾノサヤヌカグサは4葉期まで、シズイは草丈3cmまで、ナガエツルノゲイトウは再生始～草丈15cmまで、ミズアオイは4葉期まで、コナギは3葉期までが散布適期である。 ③薬害を生じるおそれがあるので、後作物として、なす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しない。
※ 45	ゼアス1キロ粒剤 (オキサジクロメホン0.4%) (ジメスルファゼット1.5%) (ヒラクロニル2.0%)		○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②直播水稻に使用する場合は薬害をさけるため、稲1葉期以降に使用する。 ③ウリカワ、ホタルイは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈12cmまで、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラは草丈10cmまでが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
46	セイテン1キロ粒剤 (オキサジクロメホン0.8%) (ジメタメトリン0.6%) (フェンキトリオン3.0%) (ヘンズルフロンメチル0.75%)	○	○		①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 ②ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
47	セイテンジャンボ (オキサジクロメホン2.4%) (ジメタメトリン2.4%) (フェンキトリオン12.0%) (ヘンズルフロンメチル3.0%)	○	-		①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 ②ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカは1葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、使用はさける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
※ 48	センメツ 1 キロ粒剤 (ジメスルファゼット1.5%) (ビラクロニル2.0%) (プロピリスルフロニ0.9%)	○	○	○	①雑草の発生前～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3.5葉期) ②直播水稲に使用する場合は薬害をさけるため、稲1葉期以降に使用する。 ③ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカは4葉期まで、ミズガヤツリは草丈25cmまで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、オモダカは矢じり葉1葉期まで、クログワイは草丈20cmまで、コウキヤガラは草丈35cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期が散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
※ 49	センメツ Z ジャンボ (ジメスルファゼット7.5%) (ビラクロニル10.0%) (プロピリスルフロニ4.5%)	○	-	○	①移植後3日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3.5葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワは4葉期まで、ミズガヤツリは草丈25cmまで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、オモダカは矢じり葉2葉期まで、クログワイは草丈20cmまで、コウキヤガラは草丈35cmまで、シズイは草丈10cmまで、ナガエツルノグイトウは再生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので使用をさける。
50	デオレー 1 キロ粒剤 (オキサジクロホニ0.4%) (テフルトリオン2.0%) (メタゾスルフロニ1.0%)		○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲に使用する場合は薬害をさけるため、稲1葉期以降に使用する。 ③ウリカワ、ホタルイ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまでが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
51	デオレージャンボ (オキサジクロホニ1.0%) (テフルトリオン5.0%) (メタゾスルフロニ2.5%)		-	○	①移植後1日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲に使用する場合は薬害をさけるため、稲1葉期以降に使用する。 ③ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈12cmまで、ヘラオモダカは2葉期まで、ホタルイは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまでが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさける。
52	天空1キロ粒剤 (ベンゾビシクロニ3.0%) (フェントラサミド3.0%) (メタゾスルフロニ0.6%)	○ ※移植のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲に使用する場合は薬害をさけるため、稲1葉期以降に使用する。 ③ウリカワは2葉期まで、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
53	天空ジャンボ (ベンゾビシクロニ10.0%) (フェントラサミド10.0%) (メタゾスルフロニ2.0%)		-	○	①移植後1日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲に使用する場合は薬害をさけるため、稲1葉期以降に使用する。 ③ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまでが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさける。
54	天空エアー粒剤 (ベンゾビシクロニ10.0%) (フェントラサミド10.0%) (メタゾスルフロニ2.0%)		-	○	①移植後1日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲に使用する場合は薬害をさけるため、稲1葉期以降に使用する。 ③ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまでが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用をさける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
55	トップガンGT 1キログラム剤51 (ヒトリミノハツクメチル0.45%) (プロモプチン9.0%) (ペンシルフロメチル0.51%) (ペントキサゾン2.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲に使用する場合は、発芽直後の稲に対して葉害が生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布する。 ③ホタルイ、ミズガヤツリ※、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。※移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣る。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
56	ドラゴンホークZ (ゼータタイガー) 1キログラム剤 (プロピリスルフロン0.9%) (プロモプチン9%) (ペントキサゾン2%)	○	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ※ 3葉期まで、ヒルムシロ 発生期まで、セリ 再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサ 2葉期まで、オモダカ 発生始期まで、クログワイ 発生始期まで、コウキヤガラ 発生始期まで、シズイ 草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離 発生前が散布適期である。※移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣る。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
57	ドラゴンホークZ (ゼータタイガー) フロアブル (プロピリスルフロン1.7%) (プロモプチン16.8%) (ペントキサゾン3.7%)	○	-	○	①移植後3日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②ホタルイ3葉期まで、ウリカワ3葉期まで(直播水稲は2葉期まで)、ヘラオモダカ3葉期まで、ミズガヤツリ4葉期まで※(直播水稲は3葉期まで)、ヒルムシロ 発生期まで、セリ 再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサ 2葉期まで、オモダカ 発生始期まで、クログワイ 発生始期まで、コウキヤガラ 発生始期まで、シズイ 草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離 発生前までが散布適期である。※移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣る。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
58	ドラゴンホークZ (ゼータタイガー) ジャンボ (プロピリスルフロン3.0%) (プロモプチン30.0%) (ペントキサゾン6.67%)	○	-	○	①移植後3日～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②ホタルイ3葉期まで、ウリカワ3葉期まで(直播水稲は2葉期まで)、ヘラオモダカ3葉期まで、ミズガヤツリ4葉期まで※(直播水稲は3葉期まで)、ヒルムシロ 発生期まで、セリ 再生前から再生始期まで、エゾノサヤヌカグサ 発生始期まで、オモダカ 発生始期まで、クログワイ 発生始期まで、コウキヤガラ 発生始期まで、シズイ 草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離 発生前までが散布適期である。※移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣る。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻や浮き草が多発している水田では拡散が不十分となり、部分的な葉害や効果不足の可能性があるので使用をさける。
59	バッチリLX1キログラム剤 (イマゾスルフロン0.9%) (オキサジクロメホン0.4%) (プロモプチン9.0%) (ヒラクロニル2.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリは3葉期まで(但し、直播水稲は2葉期まで)、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワは2葉期まで(但し、直播水稲は発生始期まで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイは発生前まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ナガエツルノゲイトウは再生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
60	バッチリLXフロアブル (イマゾスルフロン1.7%) (オキサジクロメホン0.56%) (プロモプチン16.3%) (ヒラクロニル3.7%)		○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ミズガヤツリは3葉期まで(但し、直播水稲は2葉期まで)、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで(但し、直播水稲は発生前まで)、オモダカ、クログワイは発生前まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
61	バッチリ L X ジャンボ (イマゾスルフロン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (フクロモフチド22.5%) (ヒラクロニル5.0%)		-	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが散布適期である。
62	バッチリ L X 400FG (イマゾスルフロン2.25%) (オキサジクロメホン0.75%) (フクロモフチド22.5%) (ヒラクロニル5.0%)		-	○	③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な葉害や効果不足を生じることがあるので使用をさける。
63	ベッカク 1 キロ粒剤 (ヒミズルファン0.5%) (フェノキサスホン2.0%) (フェンキトリオン3.0%)	○ ※移植のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②直播水稲で使用する場合は、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない散布する。 ③エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、キシウスズメノヒエは再生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
64	ベルーガ1キロ粒剤 (ヒミズルファン0.9%) (フェンキトリオン3.0%)	○	○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、播種直後(湛水散布)～ノビエ3葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
65	ボデーガードプロ (カウンスルコンプリート) ジャンボ (テフリトリオン10.0%) (トリアファモン1.6%)		-	○	①移植後5日～ノビエ3.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉揃～ノビエ3葉期) ②ホタルイは3葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは4葉期まで(直播水稲のミズガヤツリでは3葉期まで)、ウリカワは3葉期まで(直播水稲では2葉期まで)、クログワイは発生始期まで、オモダカは発生前から広線形葉2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、コウキヤガラは発生始期から草丈25cmまで、キシウスズメノヒエは3葉期までが散布適期である。 ③葉害が生じるおそれがあるので、後作物として、なす、たまねぎ及びさやえんどうを栽培しない。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ⑤藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性がありますので使用をさける。
66	ヤイバ (ゴール) 1 キロ粒剤 (ヒミズルファン0.5%) (フェントラザミド3.0%)	○	○		①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
67	ラオウ1キロ粒剤 (タムロン6.0%) (フェノキサスホン1.5%) (フェンキトリオン2.5%) (ペンシルフロメチル0.75%)	○ ※移植のみ	○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、シズイは草丈3cmまで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
68	ラオウフロアブル (タムロン11.3%) (フェノキサスホン2.8%) (フェンキトリオン4.7%) (ペンシルフロメチル1.4%)		○	○	①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで、シズイは草丈3cmまで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
69	流星1キロ粒剤 (フェンキトリオン3.0%) (ヘントキサゾン2.5%) (メタゾスルフロン1.0%)		○	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②直播水稲に使用する場合は、薬害をさけるため稲の1葉期以降に使用する。 ③ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ホタルイは3葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、オモダカはヘラ葉期まで、クログワイ、コウキヤガラは草丈10cmまでが散布適期である。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
70	ルンバ楽粒 (オキサジクロメホン2.4%) (プロモフチド36.0%) (フロビラウキシフェンシール1.8%)		-		①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 ②ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、ミズガヤツリは草丈15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカは発生始期までが処理適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④吸湿性があるので、ぬれた手で作業したり、降雨等で薬剤がぬれないように注意し、開封後は早めに使用する。 ⑤藻や浮草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるため、使用はさける。
71	ワザアリ楽粒 (イプソカルバゾン10%) (テフリルトリオン12%)		-	○	①雑草の発生前～ノビエ3葉期に散布する。 (直播水稲は、稲1葉期～ノビエ3葉期) ②ホタルイ、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは草丈20cmまで(直播水稲は草丈12cmまで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ、クログワイは発生始期までが処理適期である。 ③れんこん等の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。 ④吸湿性があるので、ぬれた手で作業したり、降雨等で薬剤がぬれないように注意し、開封後は早めに使用する。 ⑤藻や浮草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるため、使用はさける。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。
使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))

[【目次に戻る】](#)

(3) 中後期剤 [【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録		使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	直播	
1	2, 4-Dアミン塩 (2, 4-PA49. 5%)			①散布1～2日前に落水し、雑草を十分露出させて散布し、散布後2～3日は落水のままにしておく。 ②散布直後に降雨があると効果が劣るため、降雨前の散布はさけ、なるべく好天気の日中を選んで散布する。 ③立毛中の広葉作物に本剤がかかると薬害を生じるおそれがあるので散布に際しては、これらの作物に飛散してかからないように注意する。
2	アトカラS (セカンドショットS) ジャンボMX (アジメスルフロ0. 36%) (ベノキスラム0. 36%) (メソトリオン2. 0%)		○	①移植後14日～ノビエ3. 5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲4葉期～ノビエ4葉期) ②ホタルイ(移植水稻)は草丈10cm まで、ホタルイ(直播水稻)、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ(直播水稻)、ウリカワ(直播水稻)は3葉期まで、ウリカワ(移植水稻)は4葉期まで、ミズガヤツリ(移植水稻)は草丈15cm まで、クログワイは草丈20cm まで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、ヒルムシロ(移植水稻)は発生盛期まで、ヒルムシロ(直播水稻)は発生期まで、セリは再生期まで、コウキヤガラは草丈20cm まで、キシウスズメノヒエは再生茎4葉期までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。 ④藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足を生じる可能性があるため使用をさける。
3	アトトリ 1 キロ粒剤 (ピリミスルファン0. 75%)		○	①移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲5葉期～、但し適用雑草はオモダカ、クログワイのみ) ②ミズガヤツリは6葉期まで、ウリカワは4葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカは発生盛期から矢尻葉3葉期まで、クログワイ、シズイ、コウキヤガラは草丈30cm以下が散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。
4	ウィードコア 1 キロ粒剤 (フルビラウキシフェンベンシール 0. 40%) (ベノキスラム0. 50%) (ベンゾピヒシクロン2. 0%)		○	①移植後7日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲3葉期～ノビエ4葉期) ②クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈20cmまで、ホタルイは4葉期まで、マツバイは増殖期まで、ミズガヤツリは5葉期まで。オモダカは草丈30cmまで、ウリカワは4葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、セリは再生盛期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、キシウスズメノヒエは再生茎2葉期まで、ナガエツルノゲイトウは草丈15cmまで、アゼガヤ(一年生雑草)は草丈10cmまで、ミズアオイ(一年生雑草)は心形葉2葉期までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。
5	クリンチャー 1 キロ粒剤 (シハロップ プチル1. 8%)		○	①1kg/10a : 移植後7日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、播種後10日～ノビエ3葉期) 1. 5kg/10a : 移植後25日～ノビエ5葉期に散布する。 (直播水稻は、播種後25日～ノビエ4葉期) ②広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ③キシウスズメノヒエは展開葉が水面に接する条件、アゼガヤは草丈20cmまでに散布する。藻類または表層剥離の発生しやすい水田では、有効な剤と組み合わせて使用する。 ④散布に当っては、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm程度)で均一に散布する。特に、ノビエ5葉期散布の場合は水深を5cmに調整する。 ⑤漏水田(減水深2cm/日以上)では、薬害が発生する恐れがあるので、使用しない。
6	クリンチャーEW (シハロップ プチル30%)		○	①移植後20日～ノビエ6葉期に散布する。 (直播水稻は、播種後10日～ノビエ5葉期) ②展着剤を加用する。 ③広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ④キシウスズメノヒエでは再生茎3～6葉期が散布の適期である。また、畦畔より侵入するキシウスズメノヒエ防除ではほふく茎1m以内の株全体に株元まで散布する。アゼガヤには、草丈60cmまでが散布の適期である。 ⑤出来るだけ落水処理する。 ⑥漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録		使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	直播	
7	クリンチャーバスME液剤 (シハロップ®フチル3%) (ベンタリオン20%)		○	①移植後15日～ノビエ5葉期に散布する。 (直播水稲は、播種後10日～ノビエ5葉期) ②葉害の恐れがあるので、展着剤は加用しない。 ③ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは、発生盛期から増殖中期まで、オモダカでは、発生盛期(草丈5～15cm)まで、セリでは増殖初期～盛期まで、クログワイでは、発生盛期(草丈10～20cm)まで、コウキヤガラでは、発生盛期まで、シズイでは、草丈5cm程度まで、キシウスズメノヒエでは、再生茎3～6葉期までが散布適期である。畦畔より侵入するキシウスズメノヒエでは、ほふく茎1m以内の株全体に散布する。 ④移植水稲では、散布する前に落水状態にして水の出入りを止め、撒きむらのないように均一に散布する。散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 ⑤処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になる恐れがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。 ⑥漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。 ⑦葉害の恐れがあるため、重複散布や軟弱稲への散布を避ける。特に乾田直播水稲に使用する場合は注意する。 ⑧乾燥が続いた条件では除草効果が低下する場合がある。特に乾田直播水稲に使用する場合は注意する。
8	ツイゲキ1キロ粒剤 (シメリン3.0%) (ビ°リミスルファン0.75%) (フェンキナトリオン2.5%)	○ ※移植のみ	○	①移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稲は、稲5葉期～ノビエ4葉期) ②ヘラオモダカはヘラ葉1葉期まで、ホタルイは草丈20cmまで、ミズガヤツリ、ウリカワは5葉期まで、クログワイ、シズイ、コウキヤガラは草丈30cmまで、オモダカは矢尻葉4葉期まで、キシウスズメノヒエは再生茎4葉期まで、エゾノサヤヌカグサは4葉期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生初期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは増殖期までが散布適期である。 ③直播水稲に使用する場合は、発芽直後の稲に対して葉害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の5葉期以降に散布する。 ④れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分に注意する。
9	トドメMF1キロ粒剤 (メタホップ®1.35%)		○	①移植後14日～ノビエ5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲3.5葉期～ノビエ4葉期) ②広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ③キシウスズメノヒエは再生茎5葉期まで、アゼガヤ(一年生雑草)は草丈20cmまでが散布適期である。 ④藻類又は表層剥離の発生しやすい水田では、有効な剤と組み合わせて使用する。
※ 10	ノブレクト乳剤 (フロルビ°ラウキシフェンベンシル 2.1%) (シハロップ®フチル10.6%)		○	①移植後20日～ノビエ5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲3葉期～ノビエ5葉期) ②マツバイは発生期、ミズガヤツリは草丈30cmまで、ウリカワは6葉期まで、セリは増殖期までが散布適期である。 ③ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので、それら雑草が混在するほ場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。 ④土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがあるため、乾田または落水状態で散布する際は早め(3日以内)に入水する。 ⑤葉害のおそれがあるので重複散布をさける。 ⑥幼穂形成期以降の散布では葉先の黄化や止葉の下垂が見られる場合があるが、収量への影響は認められていない。 ⑦れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。
11	ハイカット1キロ粒剤 (シ°メタトリン1.0%) (ハスルフロンメチル0.9%) (シハロップ®フチル1.8%) (ベンゾ°ヒ°シクロン2.0%)	○ ※移植のみ	○	①移植後15日～ノビエ3.5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲3葉期～ノビエ3.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは4葉期まで、ヘラオモダカは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、キシウスズメノヒエは3葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈30cmまで、また、イボクサ(一年生雑草)は茎長20cmまで、クサネム(一年生雑草)は草丈20cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録		使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	直播	
12	バサグラン粒剤 (ベンタゾンナトリウム塩11%)		○	①移植後15日～散布する。(直播水稻は、稲3葉期～) ②イネ科雑草には効果が劣るので、多年生雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用する。 ③ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から発生揃期まで、クログワイでは草丈15cm以下、エゾノサヤヌカグサは1～4葉期、シズイでは草丈10～30cmが散布適期である。 ④水の移動に伴う移行性が大きく、水深が浅いほど効果が安定するため、落水処理とし、土壌が十分湿っている状態のときに散布する。完全落水できない場合は、雑草を露出させてから散布する。 ⑤処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。散布後は入水せずに止水の状態を保ち、降雨があってもそのままにして落水しない。 ④砂質土壌や漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。
13	バサグラン液剤 (ベンタゾンナトリウム塩40%)		○	①移植後15日～散布する。(直播水稻は、播種後35日～) ②イネ科雑草には効果が劣るので、多年生雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用する。 ③ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から増殖初期まで、クログワイでは草丈15～30cm、エゾノサヤヌカグサでは1～4葉期、シズイでは草丈10～30cm、コウキヤガラでは増殖期、クサネムでは本葉展開期が散布適期である。 ④水の移動に伴う移行性が大きく、水深が浅いほど効果が安定するため、落水処理とし、土壌が十分湿っている状態のときに散布する。完全落水できない場合は、雑草を露出させてから散布する。 ⑤処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。散布後は入水せずに止水の状態を保ち、降雨があってもそのままにして落水しない。 ④砂質土壌や漏水田(減水深2cm/日以上)では使用しない。
14	ヒエクリーン1キロ粒剤 (ピリミホクメチル1.2%)		○	①移植後15日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、雑草発生前～ノビエ4葉期) ②直播水稻で使用する場合、稲の萌芽後から3葉期末満までは葉害を生じるおそれがあるので使用しない。 ③広葉、カヤツリ科雑草が混在する圃場では、それらに有効な剤と組み合わせ使用。
15	ヒエクリーンバサグラン粒剤 (ピリミホクメチル0.4%) (ベンタゾン11.0%)		○	①移植後15日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲3葉期～ノビエ4葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ウリカワは4葉期まで、オモダカは矢尻葉抽出期まで、クログワイは草丈15cm前後、シズイは草丈30cmまでが散布適期である。 ③水の移動に伴う移行性が大きいため、散布の際は水の出入りを止めてごく浅水状態(雑草が水面上に出る状態)にして田面に均一に散布する。深水にすると効果が劣るので注意する。 ④処理2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるため、降雨のない時期を選んで散布する。降雨があっても落水せずそのまゝの状態を保つ。
16	レブラス1キロ粒剤 (ジメタメリン1.0%) (タムロン10.0%) (テフリトリオン3.0%) (メタゾスルフロン1.2%)		○	①移植後14日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲2葉期～ノビエ4葉期) ②ホタルイは花茎20cmまで、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリは4葉期まで、ヒルムシロは生育期まで、セリは再生期まで、オモダカは矢尻葉3葉期まで、クログワイ、コウキヤガラは草丈30cmまで、シズイは草丈20cmまでが散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分注意する。
17	レブラスジャンボ (ジメタメリン2.5%) (タムロン25.0%) (テフリトリオン7.5%) (メタゾスルフロン3.0%)		○	①移植後14日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ4葉期) ②ホタルイは花茎20cmまで、ヘラオモダカは4葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、オモダカは矢尻葉3葉期まで、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈30cmまでが散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には十分注意する。 ④藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるため使用をさける。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登 録		使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	直播	
18	ロイヤント乳剤 (フロルピラウキシフェンベンゾール2.7%)		○	<p>①移植後20日～ノビエ5葉期に散布する。 (直播水稲は、稲3葉期～ノビエ5葉期)</p> <p>②ミズガヤツリは草丈25cmまで、ウリカワは6葉期まで、セリは増殖期まで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、また、エゾノサヤヌカグサは3葉期まで、シズイは草丈30cmまで、ナガエツルノゲイトウは草丈60cmまで、また、一年生雑草のアゼガヤは草丈30cmまで、オオクサキビは5葉期までが散布適期である。</p> <p>③ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので、それら雑草が混在するほ場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用する。</p> <p>④土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがあるため、乾田または落水状態で散布する際は早め(3日以内)に入水する。</p> <p>⑤薬害のおそれがあるので重複散布をさける。</p> <p>⑥幼穂形成期以降の散布では葉先の黄化や止葉の下垂が見られる場合があるが、収量への影響は認められていない。</p> <p>⑦れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。</p>
19	ワイドアタックSC (ヘノキスラム3.6%)		○	<p>①移植後20日(稲5葉期以降)～ノビエ6葉期に散布する。 (直播水稲は、稲3葉期～ノビエ5葉期) イネの出穂時の散布は薬害のおそれがあるので、使用しない。</p> <p>②ホタルイは花茎抽出始まで、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは4～6葉期まで、ヒルムシロ、セリは生育期まで、クログワイは草丈20～30cmまで、オモダカは草丈30cmまで、シズイは草丈10cmまで、コウキヤガラは草丈20cmまで、クサネム(一年生雑草)は草丈20cmまで、ミズアオイ(一年生雑草)は3～4葉期までが散布適期である。</p> <p>③散布前に容器をよく振って使用する。薬害のおそれがあるので展着剤は添加しない。</p> <p>④落水後処理する。少なくとも2日間はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しは行わない。</p> <p>⑤処理後1日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。</p> <p>⑥れんこん等の隣接田で使用する場合は十分に注意する。</p>

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム\(農林水産省\)」](#)を参照してください。
使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください([アクセス方法については、巻末の使用方法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

(5) その他剤 [【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
1	モゲトン粒剤 (ACN9%)	○		○	①養魚池のある水系では、使用しない。
2	ピラクロン1キロ粒剤 (ピラクロニル1.8%)	○ ※移植 のみ	○	○	【初期剤】 ①雑草発生前～始期に散布する。 ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワでは発生始期まで、ヒルムシロでは発生期まで、オモダカでは発生前から発生始期、クサネムでは本葉1葉期まで、クログワイ、コウキヤガラでは発生前、ナガエツルノゲイトウは再生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離では発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。 ④直播水稻で稲出芽前に使用する場合は、できるだけ落水状態にして散布し、確実に発芽が確認できるまでは入水しない。稲出芽時に湛水状態になると苗立ち数の低下を生じる場合があるので注意する。稲出芽始期以降は湛水状態で散布する。表面は種（鉄コーティング等）では、薬害を生じるので土中は種で使用しる。
3	ウィナー1キロ粒剤51 (イプフェンカルバザン2.5%) (プロモプチド9.0%) (ヘンズルフロンメチル0.51%)	○	○	○	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
4	ウィナーLフロアブル (イプフェンカルバザン5.0%) (プロモプチド18.0%) (ヘンズルフロンメチル1.0%)	○	○	○	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ※、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。※移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用する。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
5	シリウスエグザ1キロ粒剤 (オキサジクロメホン0.4%) (ピラクロニル2.0%) (ピラゾスルフロンエチル0.3%) (ヘンズルピシクロン2.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ2.5葉期) ②れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
6	シンズイZ1キロ粒剤 (オキサジクロメホン0.80%) (フェンキトリオン3.0%) (プロピリスルフロン0.90%) (プロモプチド9.0%)	○ ※移植 のみ	○	○	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ3.5葉期) ②ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイ、ミズガヤツリは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
7	シンズイZフロアブル (オキサジクロメホン1.1%) (フェンキトリオン5.4%) (プロピリスルフロン1.6%) (プロモプチド16.1%)	○ ※移植 のみ		○	【初中期一発剤】 ①移植後3日～ノビエ4葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ3.5葉期) ②エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイ、ミズガヤツリは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

[【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	登録			主 な 使 用 上 の 注 意
		藻類・ 表層剥離	移植時	直播	
8	バッチリ 1 キロ粒剤 (イマゾスルフロン0.9%) (プロモブチル9.0%) (ピラクロニル2.0%)	○ ※移植のみ	○	○	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲出芽始期～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカは2葉期まで、ミズガヤツリは2葉期まで(ただし、直播水稻栽培は1葉期まで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
9	バッチリフロアブル (イマゾスルフロン1.7%) (プロモブチル16.3%) (ピラクロニル3.7%)	○ ※移植のみ	○	○	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲出芽始期～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
10	バッチリジャンボ (ピラクロニル5.0%) (イマゾスルフロン2.25%) (プロモブチル22.5%)	○ ※移植のみ	-	○	【初中期一発剤】 ①雑草の発生前～ノビエ2.5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲1葉期～ノビエ2.5葉期) ②ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは2葉期まで、ウリカワは2葉期まで(ただし、直播水稻栽培は発生始期まで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が散布適期である。 ③藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な葉害や効果不足を生じることがあるので使用をさける。 ④れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。
11	ワイドアタックD 1 キロ粒剤 /フォローアップ1キロ粒剤 (タムロン10.0%) (ヘキサスラム0.6%)			○	【中後期剤】 ①移植後15日(稲4葉期以降)～ノビエ5葉期に散布する。 (直播水稻は、稲3葉期～ノビエ5葉期) ②ホタルイ[移植水稻]5葉期まで、[直播水稻]4葉期まで ミズガヤツリ[移植水稻]5葉期まで、[直播水稻]3葉期まで ウリカワ[移植水稻]6葉期まで[直播水稻]3葉期まで ヘラオモダカ 4葉期まで クログワイ 草丈30cmまで オモダカ 草丈30cm(発生盛期～矢じり葉抽出期)まで コウキヤガラ 草丈15cmまで ヒルムシロ[移植水稻]生育期まで、[直播水稻]発生期まで セリ[移植水稻]生育期まで、[直播水稻]再生前～再生始期まで シズイ 草丈10cmまで ③れんこんなどの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、「[農薬登録情報提供システム\(農林水産省\)](#)」を参照してください。
使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

2) 直播栽培 [【目次に戻る】](#)

番号	除 草 剤 名 (成 分)	使 用 上 の 注 意
1	キックバイ 1 キロ粒剤 (イマゾスルホン0.9%) (エトベンザニド15%) (ダィムロン15%)	①湛水状態で均一に散布し、3～4日間は通常の湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 ②本剤は、その殺草特性からいぐさ、レンコン等の生育を阻害する恐れがあるので、生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する。特に早期水稲で使用する場合は、萌芽期と重なるため使用しない。 ③コウキヤガラの防除は有効な他剤との組合せで使用する。
2	サターンバアロ乳剤 (ベンチカーブ50%) (プロメトリン5%)	①覆土は2～3cmとし、鎮圧後散布 ②生育期に散布すると薬害の危険があるので絶対に使用しない。 ③出芽直前に散布し滞水する場合は薬害の危険があるので、降雨が予想される場合には播種後早い時期に散布する。
3	サンバード粒剤 (ピラジナート10%)	①湛水状態で均一に散布し、できるだけ長い期間、少なくとも5日間以上、湛水状態を保ち、7日間は落水、かけ流しはしない。 ②水が切れると効果が低下するので、田面の露出をさける。 ③散布後の落水、かけ流しは絶対避ける。 ④雑草の発生前～始期にかけて処理すると効果が高い。
4	バサグラン液剤 (ペンタリオン40%)	①落水処理で、土壌が十分湿っている状態のときに散布。 ②完全落水できない場合は、雑草を露出させてから散布する。 ③散布後は入水せずに止水の状態を保ち、降雨があってもそのままにして落水しない。
5	モゲトン粒剤 (CAN9.0%)	①養魚池のある水系では、使用しない。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。

使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

[【目次に戻る】](#)

〔Ⅱ〕 栽培別除草剤使用上の一般的留意事項 [〔目次に戻る〕](#)

1. 除草剤使用上の共通的注意事項 [〔目次に戻る〕](#)

- (1) 健苗を育成し、本田での移植精度を高くする。
- (2) 軟弱徒長苗の場合は移植後の使用を避け、水稻が健全な状態になってから使用する。
- (3) 生ワラ等有機物多用田では、代かき精度を高めるとともに田面の均平化をはかる。
- (4) 湛水深は3～4 cm(ジャンボ剤等では5～6 cm)で均一に散布し、その後7日間以上の止水管理を遵守する。

2. 移植栽培（主として稚苗） [〔目次に戻る〕](#)

- (1) 田面が不均一で深水となるところは、水稻が軟弱徒長な生育となっていて、薬害を受けやすいので、後日生育が正常になってから散布する方がよい。
- (2) 2. 4-Dなどのホルモン型茎葉処理剤の散布は、水稻の幼穂形成始期以前までに散布し、水稻体への薬液附着が少ないように株間中心に散布する。
- (3) 常襲的な浸冠水田では、葉鞘褐変や分げつ抑制などの薬害症状が強く出る除草剤は使用しない。

3. 直播栽培における雑草防止の留意事項 [〔目次に戻る〕](#)

- (1) 直播栽培では水稻への薬害が懸念されるため、播種前後の時期には特に薬害の少ない除草剤を使用する。
- (2) 湛水直播では播種直後にピラゾレート散布すると除草効果が高い。
- (3) 湛水直播では登録除草剤の使用時期が移植栽培に比べて短いので、散布時期を逸しないように気を付ける。
- (4) 乾田直播では播種後出芽前（雑草発生前）までのなるべく早い時期に除草剤を散布した方がより除草効果は高い。
- (5) 乾田直播においては播種から入水までの期間が長くなる場合は、その間に雑草の生育が進むため、乾田状態で茎葉処理剤を散布する。
- (6) 乾田直播において入水後の除草剤は、日減水深が2cm以下となってから散布した方が望ましい。特にシメトリン系除草剤については散布前後の気象条件と漏水に注意する必要がある（28℃以上の高温あるいは15～16℃以下の持続的な低温、減水深2cm/日以上により薬害を生じ易い）。

4. 優占草種と除草剤使用体系について [【目次に戻る】](#)

現在、本県における雑草の草種別発生面積は1年生イネ科及び広葉雑草が多い。近年、アゼガヤ、コナギ、ホタルイ、コウキヤガラ、藻類などが増加しつつある。

そこで、これらの雑草の防除にあたっては、それぞれの地区内、個々の水田雑草の草種が何れであるかということを十分把握して、除草剤の使用体系や設計を樹立することが必要である。また、発生時期や発生の多少もよく把握した上で除草剤の効果的な使用に心掛け、必要以上の除草剤使用は避ける。

5. 平年における佐賀県平坦での除草剤処理時期と雑草発生状態 [【目次に戻る】](#)

(佐賀試セ)

処理時期	水 稲	ノビエ	カヤツリ グ サ	コナギ	一年生 広 葉	ホタルイ	ク ロ グワイ	セ リ
－4日	代かき	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	切 断
±0日	2.5L	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	活 着
＋3日	2.9L	0.3L	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	0.5L
＋5日	3.3L	0.5L	発生始	0.3L	0.3L	0.3L	発生始	1.0L
＋7日	3.7L	1.0L	0.3L	0.5L	0.5L	0.5L	0.3L	1.5L
＋10日	4.2L	1.5L	0.5L	1.0L	1.0L	1.0L	0.5L	2.0L
＋13日	5.5L	2.0L	1.0L	1.5L	1.5L	1.5L	1.0L	2.5L
＋15日	5.9L	2.5L	1.5L	2.0L	2.0L	2.0L	1.5L	3.0L

注) 発生時期は高温や浅水で早くなる。

6. 水稻除草剤の田植え同時処理について [【目次に戻る】](#)

近年、省力技術として、水稻除草剤の田植え同時除草剤処理（以下、田植え同時処理）が普及している。しかし、田植え同時処理での適切な使用ができていないために、水稻への薬害事例の報告が急増している。そこで、田植え同時処理における主な留意点を紹介する。

- (1) 田植同時処理の登録があり、使用する地域で効果、薬害発生の有無の確認を行い、機械適性を有した剤を選定する。
- (2) 同じ目盛りでも、剤の形状、粒形、比重によって散布量が変わるので、処理前に散布量の調整を必ず行い、適正量が散布されるようにする。
- (3) 植付け後の土の戻りが悪いほ場では田植同時処理は行わない。
- (4) 代かきは丁寧に行い、均平度を保つ。
- (5) 田植えはヒタヒタ水の状態で行う。
- (6) 田植え（散布）終了後は通常の湛水深（3～5cm）まで速やかに入水する。
- (7) 浅植えや浮き苗がないよう適正な植え付け深度を保つ。（浅植え、浮き苗は薬害が発生しやすい）
- (8) 不整形なほ場では、田植機が何度も入る部分があるため、重複散布とならないよう注意する。
- (9) 雨の中で粒剤による田植同時処理を行う場合は、カバーをかけるなど、散布機に水が入らないよう注意する。

〔Ⅲ〕 各除草剤の薬害症状 [〔目次に戻る〕](#)

成分名	HRAC コード	薬害症状	雑草スペクトラム (極大◎>大○>中△>小×、不明ー)							持続 効果	土壌中 の 移動性	温度の 影響	発生要因
			ハビエ	カヤツリ グサ	コナギ	その他広 葉	ハルイ	ウリカワ	カコグワ イ				
MCPB	4	ロール葉 生育抑制	×	○	○	○	◎	○	ー	長	小	中	低温条件が数日続く とき
アジメスルフロ ン	2	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	長	中	小	
イブフェンカル バゾン	15	生育抑制	◎	◎	○～ ◎	○	○	×	×	極長	極小	小	
イマゾスルフロ ン	2	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	長	小	小	
エトキシスルフ ロン	2	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	×	長	中	小	
エトベンザニド	0	発芽後 生育阻害	◎	×	△	×	×	×	×	長	小	小	
オキサジクロメ ホン	0	生育抑制	◎	◎	○	○	×	×	ー	極長	小	小	
カフェンスト ロール	15	生育抑制	◎	◎	○～ ◎	○	△～ ○	×	×	長	極長	小～中	
キノクラミン (ACN)	0	褐変 生育抑制	×	×	×	×	×	○	×	短	小	小	
クロメブロップ	4	ロール葉	×	◎	◎	◎	◎	○	ー	長	中	小	低温条件が数日続く とき
シクロピリモ レート	33	白化	△	◎	◎	◎	◎	◎	ー	長	極小	小	
シハロホップブ チル	1	黄化、生育停止 枯死	◎	×	×	×	×	×	×	短	小	小	
ジメタメトリン	5	生育抑制 下葉枯れ	△	◎	◎	◎	○	△	ー	長	小	小～中	高温条件、低温から 高温への急激な温度 変化
シメトリン	5	葉先枯れ 生育抑制	○	○	◎	◎	△	△	ー	中～長	小	中	高温条件、低温から 高温への急激な温度 変化
ダイムロン	0	ー	×	◎	×	×	◎	×	○	長	小	小	
テニルクロール	15	発芽抑制 生育抑制	◎	◎	○	○	○	×	×	長	小	小	
テフリルトリオ ン	27	白化	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	長	中	小	
トリアファモン	2	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	極長	極小～ 小	小	
ハロスルフロ ンエチル	2	生育阻害	△～ ○	◎	◎	◎	◎	◎	○	長	中	小	

[〔目次に戻る〕](#)

成分名	HRAC コード	薬害症状	雑草スペクトラム (極大◎>大○>中△>小×、不明ー)							持続 効果	土壌中 の 移動性	温度の 影響	発生要因
			ノビエ	カヤツリ グサ	コナギ	その他広 葉	ホトメ イ	ウリカ	クサノ コ				
ピラクロニル	14	葉鞘褐変 生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	長	極小	小	
ピラゾスルフロ ンエチル	2	発芽・生育抑 制	△～ ○	◎	◎	◎	◎	◎	○	長	中	小	
ピラゾレート	27	白化	◎	◎	◎	○	○	◎	ー	長	小～中	中	著しい高温条件
ピリフタリド	2	生育抑制	◎	○	×	○～ ◎	△	×	ー	長	極小	小	
ピリミスルファ ン	2	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	長	中	小	
ピリミノバック メチル	2	生育抑制	◎	×	×	×	×	○	×	長	中	小	
フェノキサスル ホン	15	生育抑制	◎	◎	◎	○	△～ ○	×	×	極長	小	小	
フェンキノトリ オン	27	白化、 生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	ー	極長	小～中	小	
フェントラザミ ド	15	発芽、 生育抑制	◎	◎	◎	◎	△	△	×	長	極小	小	
ブタクロール	15	生育抑制	◎	◎	○	◎	◎	×	×	長	小	小	極端な高温時、温度 の急激な変化
フルセトスルフ ロン	2	生育抑制	◎	○	◎	△	△	○	△	長	中	小	
ブレチラクロー ル	15	発芽、生育抑制	◎	◎	○	◎	◎	×	ー	中～長	小	小	極端な高温時、温度 の急激な変化
フロルピラウキ シフェンベンジ ル	4	ロール葉、生育 抑制	○	◎	◎	◎	○	◎	△	長	極小	小	
プロピリスルフ ロン	2	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	極長	極小	小	
プロモブチド	0	生育抑制	○	◎	◎	△	◎	△	○	長	中	小	
ペノキススラム	2	生育阻害 生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	中	中	小	
ベンスルフロ ンメチル	2	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	△～ ○	非体科 30日 以上	中	中	
ベンゾピシクロ ン	27	生育抑制 退色	○	◎	◎	○	◎	△	△	極長	極小	小～中	
ベンゾフェナッ プ	27	ー	○	○	◎	◎	△	◎	×	長	小	小～中	
ペンタゾン	6	葉枯れ	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ー	大	やや有	

[【目次に戻る】](#)

成分名	HRAC コード	薬害症状	雑草スペクトラム (極大◎>大○>中△>小×、不明－)							持続 効果	土壌中 の 移動性	温度の 影響	発生要因
			ハビエ	カヤツリ グサ	コナギ	その他広 葉	ホタルイ	ウリカワ	クロクワイ				
ベンチオカーブ	15	生育抑制	◎	◎	△	○	○	×	×	中	小	小	
ペントキサゾン	14	接触部位・葉鞘 褐変、生育抑制	◎	◎	◎	◎	○	×	○	長	極小	小	深水・軟弱徒長苗
メソトリオン	27	白化、発芽・生 育阻害	×	◎	◎	◎	◎	△	－	長	小	小～中	
メタゾスルフロ ン	2	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	長	中	小	
メタミホップ	1	生育抑制、葉先 白化	◎	×	×	×	×	×	×	中	小	小～中	
メフェナセット	15	発芽・生育抑 制	◎	◎	◎	△	△	×	×	長	極小	小	
モリネート	15	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	×	△	長	中	小	極端な還元状態
ランコトリオン ナトリウム塩	27	白化	○	◎	◎	○	◎	◎	△	長	中	小	

出展元）公益財団法人日本植物調節剤協会「水稻関係除草剤申請書」

[【目次に戻る】](#)

〔Ⅳ〕 スルホニルウレア系（S U 剤）除草剤の抵抗性雑草について [【目次に戻る】](#)

(1) 抵抗性雑草の確認

本県で 1999 年佐賀郡諸富町において、1 年生広葉アゼナ、ミゾハコベの S U 剤抵抗性が確認された。これは、暖地普通期水稻としては全国でも最も早い確認である。2000 年には新たに杵島郡江北町のアゼナ、小城郡芦刈町のキカシグサ、鹿島市のミゾハコベで新たに確認された。2001 年には江北町・2003 年には相知町のミゾハコベにおいても抵抗性が確認された。

(2) 抵抗性雑草とは

気象条件や水管理、散布時期などの効果のフレとは関係なく、適正に除草剤処理を行っても効かない草と考えると良い。スルホニルウレア系除草剤の連続的使用によって、その除草剤に効かない草を淘汰圧によって増加させてしまったことになる。抵抗性は優性となり、一度抵抗性雑草となればその後は抵抗性を持ち続けるとされている。抵抗性が確認されたのは S U 剤が初めてである。

(3) S U 剤抵抗性雑草として確認されている雑草

本県においては、アゼナ、ミゾハコベ及びキカシグサであるが、他県ではコナギ、キクモ、ミズアオイ、アゼトウガラシ、イヌホタルイなどで確認されている。

雑草としてはマイナーで比較的水稻生育阻害が少なく、防除も容易と見られているアゼナ

やミゾハコベであるが寒冷地の例ではその後、多年生雑草で難防除雑草であるイヌホタルイなどに抵抗性が付いてしまうことが大きな問題である。福岡県ですでにアメリカアゼナ、コナギ、イヌホタルイにおいて確認されたことから、より一層今後の対応については慎重に対処する必要がある。

(4) S U剤としての成分

ベンスルフロンメチル、ピラゾスルフロンエチル、イマゾスルフロン、エトキシスルフロン、シクロスルファムロン、シノスルフロン、アジムスルフロン、ハロスルフロンメチル、フルセトフロン、プロピリスルフロンを成分として含んでいるのはS U剤混合剤と言い、現在本県の初期一発剤、初中期一発剤の大半に含まれる剤である。

(5) S U剤抵抗性雑草への対策

コナギやイヌホタルイに対しては有効な除草剤成分が確認されており、ブロモブチドやクロメプロップ、ベンゾビシクロンなどの効果が高い。また、ベンゾフェナップやテフリルトリオンなどもこれら抵抗性雑草に有効とされている。

(6) 除草剤使用にあたって今後注意すること

1) 抵抗性が確認された地域（圃場）

① S U剤を含まない防除方法（体系処理も含む）が最も有効、次いで② S U剤は含むが抵抗性雑草に有効な剤の使用であり、特に②の場合には除草剤のローテーション使用に心掛けなければ、抵抗性雑草草種の広がりにつながりかねない。その中で初期剤とS U剤（一発剤）を組み合わせた体系は今後ローテーションのメニューとして捉える必要がある。

また、抵抗性雑草が確認された地域（圃場）では、抵抗性雑草に対して有効な剤を登録の範囲内で出来るだけ早めに処理することが望ましい。

2) 抵抗性が確認されていない地域（圃場）

その確認を続けながら当面①除草剤のローテーション散布（S U剤を全く含まない剤も使用例に入れて）を行う。②この場合もS U混合剤同一剤の連用は避ける。

いずれにしても、未確認の地域でもS U剤を全く含まない剤や体系処理を一つの事例として組んでいく必要がある。また、そのような対応を採っても抵抗性雑草が確認されれば、その時点で1)の対応となる。

(7) 抵抗性の一年生広葉雑草に効果の高い成分と効果の低い成分

ミゾハコベ、更にはアゼナを主体とした草種に有効な成分を県農試の試験等を基に示した。

効果の高い成分名	ジメタメトリン、ナプロアニリド、ベンゾフェナップ、インダノフェン、プレチラクロール、ピリブチカルブ、フェントラザミド、ベントゾン、MCPB
効果の低い成分名	ジメピペレート、クミルロン、エスプロカルブ、ベンフレセート

[〔目次に戻る〕](#)

〔V〕 耕起前、休耕田、畦畔堤塘並びに農耕地周辺雑草防除

(1) 除 草 剤 [〔目次に戻る〕](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意 事 項
アーザラン液剤 (アゾフルム 37%)	① 効果発現は極めて遅効的(1ヶ月)である。 ② 10月～3月の期間は気温が低く、雑草の抵抗力が大であるので、使用をさける。 ③ 3回以内
プリグロックスL (ジクワット 7%) (ハアラコート 5%)	① 接触型茎葉処理剤なので周囲への飛散を避けるため、散布はできるだけ低圧で行う。 ② また必要に応じて飛散の少ないノズルや飛散防止カバーを使用する。曇天日や夕方など光量の少ないときに散布すれば除草効果が高まる。
ワンサイドP乳剤 (フルアジホップP 17.5%)	① 10アール当りの散布液量100～150L ② 1年生イネ科雑草が対象の場合は2～5葉期の処理が最も効果が高い。 ③ また、多年生イネ科雑草を対象とする場合は、幼穂形成期前であってなるべく葉面積の広い時期が適期となる。 ④ 本剤は効果発現に日数を要する(15～20日間)ので注意する。 ⑤ 散布液がイネ科作物にかかるると葉害が生じるので散布周辺にイネ科作物がある場合は十分注意する。
ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩 48%)	① 希釈水量は均一に散布できる範囲でなるべく少なくする。 ② 多年生雑草を完全枯殺するためには開花期以後がよい。 ③ 散布後3時間以内の降雨は効果を低下させるので注意する。 ④ 遅効性であるから散布後10日以内で地上部を刈取らないこと。 ⑤ 選択性がないので、周辺有用植物に薬液が飛散しないように注意する。 ⑥ 畦畔ではノリ面散布はさける。 ⑦ 周辺農耕地に作物がある場合は、薬液が飛散しないよう注意する。
草枯らしMIC (グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%)	① 展着剤加用の必要はない。 ② 雑草の発生前処理効果はない。 ③ 散布前に雑草の地上部を刈り払わない。 ④ 通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要する。 ⑤ スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣るため、適期に散布する。 ⑦ 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く ⑧ 見極めてから散布する。 ⑨ 少量散布の場合は少量散布用ノズルを用い、雑草葉面に均一に散布する。 ⑩ 水田への飛散、流入等により水稻に葉害を生ずるので、十分注意する。 ⑪ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい葉害が生ずるので、かからないように十分注意する。 ⑫ 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。
バスタ液剤 (グリホサート 18.5%)	① 散布後2～5日で効果が発現し、速効性である。 ② 雑草の発生前処理効果はない。 ③ 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候をよく見極めてから散布する。 ④ 少量散布用ノズルを用いて、雑草の茎葉が軽く、均一にぬれる程度に散布する。 ⑤ 農作物や有用植物に散布液がかかると、葉害を生じるので注意する。 ⑥ 枯死まで14日以上程度要す、即効性である。

[〔目次に戻る〕](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意 事 項
タッチダウン i Q (グリホサートナトリウム塩 44.7%)	① 展着剤加用の必要はない。 ② 散布後、効果の発現までに一年生雑草で2～4日、多年草雑草で1～2週間を要するので、この間に地上部を刈取らない。 ③ 土壌で不活性化するので、雑草の発生前処理に効果はない。 ④ スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋没しているような条件では効果が劣るため、適期に散布する。 ⑤ 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。 ⑥ 散布後1時間後の雨でも効果を発現するが、激しい降雨の予想される場合は使用を避ける。 ⑦ 散布にあたっては希釈水量10ℓ/10aでは極少量散布専用ノズル、25～50ℓ/10aでは少量散布専用ノズルを使用する ⑧ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい葉害が生ずるので、かからないように十分注意する。 ⑨ 水田畦畔に使用する場合は水田内に流入または飛散すると、葉害を生じる恐れがあるので、かからないように十分注意する。
ザクサ液剤 (グリホサートPナトリウム塩 11.5%)	① 散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 ② 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布する。 ③ 植物に薬液が付着すると葉害を生ずるので、散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように十分注意する。 ④ 土壌処理剤「ダイロンゾル」を混用すると、抑草期間が延長できる。 ⑤ 散布液を調製した容器及び散布器具は使用後十分に洗っておく。
ダイロンゾル (DCMU 50.0%)	① 本剤を所定量の水で希釈し、時々攪拌しながら均一に散布する。 ② 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 ③ 砂質で水はけの良い場所や雨の多い時期には、薬剤が土中深く浸透して有用植物に葉害が生ずる恐れがあるので注意する。 ④ 水田畦畔の雑草防除を目的として使用する場合は、雑草が枯れ残る場合もあるが、抑草効果は持続するので、追加散布や繰り返し散布をしない。 ⑤ 茎葉処理剤「ザクサ液剤」を混用すると、抑草期間が延長できる。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)
[方法参照](#)）。

(2) 抑 草 剤 [【目次に戻る】](#)

抑 草 剤 名	使 用 上 の 留 意 事 項
グラスショット液剤 (ピスチリバクナトリウム塩 3.0%)	① 抑草期間は30～40日であり草種によって期間は異なる。 ② 山間山麓では有効であるが平坦地ではメリットは小さい。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)
[方法参照](#)）。

参 考 資 料

倒伏軽減剤 [\[目次に戻る\]](#)

倒伏対策は基本的には健苗、施肥法および水管理など栽培法の基本技術を徹底して、倒伏防止を図ることが肝要であるが、何らかの要因により倒伏が予想され著しく収量、品質が低下すると思われる場合は、以下の使用基準を厳守して使用する。

1. スマレクト粒剤（パクロブトラゾール 0.6%）

毒 性：普通物

適用作物と使用方法

作 物	使 用 目 的	使用時期	使 用 方 法
水 稻	節間短縮による 倒伏軽減	出穂 7 ～ 2 0 日前	湛水散布

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME ＞ 農薬 ＞ 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用方法参照](#)）。

○使用上の注意事項

- (1) 湛水状態（湛水 3 cm 以上）でまきむらのないように均一に散布し、散布後少なくとも 7 日間は落水やかけ流しはしない。
- (2) 極端な漏水田での使用をさける。
- (3) 倒伏軽減効果については次のことに注意する。
 - ① 黒ぼく土壌では効果が十分に発揮されない場合があるので注意する。
 - ② 重複散布や多量散布は、薬害を生じたり、後作物や次年度の作物に影響する場合があるので使用量を厳守する。
 - ③ 本剤を使用した後に野菜類を作付けする場合、浅い耕起では初期生育に影響することがあるので、ていねいに深く耕起する。
 - ④ 本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用床土に使用しない。
 - ⑤ 本剤は温度、土壌、栽培品種および連年使用など使用する水田の条件や栽培管理によって倒伏軽減効果の発現程度に差異を生じるので注意する。
- (4) 使用時期は幼穂発育期になるので、この時期の水管理は慣行に従い、入念に実施する。
- (5) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意する。

2. イネビタン粒剤 $\left(\begin{array}{l} \text{イソプロチオラン 12.0\%} \\ \text{パクロブトラゾール 0.45\%} \end{array} \right)$

○毒 性：普通物

○適用作物と使用方法

作 物	使 用 目 的	使用時期	使 用 方 法
水 稻	節間短縮による 倒伏軽減	出穂 10～20 日前 (但し、収穫 45 日前 まで)	湛水散布

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

○使用上の注意事項

スマレクト粒剤の項参照。

3. ロミカ粒剤（ユニコナゾール P 0.04%）

○毒 性：普通物

○適用作物と使用方法

作 物	使 用 目 的	使用時期	使 用 方 法
水 稻	節間短縮による 倒伏軽減	出穂 25～10 日前まで	湛水散布

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

○使用上の注意事項

- (1) 湛水状態（湛水 3 cm 以上）でまきむらのないように均一に散布し、散布後少なくとも 7 日間は落水やかけ流しはしない。
- (2) 極端な漏水田での使用をさける。
- (3) 倒伏軽減効果については次のことに注意する。
 - ① 黒ぼく土壌では効果が十分に発揮されない場合があるので注意する。
 - ② 重複散布や多量散布は、後作物に影響する場合があるので使用量を厳守する。
 - ③ 本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用床土に使用しない。
 - ④ 本剤は温度、土壌、栽培品種および連年使用など使用する水田の条件や栽培管理

によって倒伏軽減効果の発現程度に差異を生じるので注意する。

- (4) 使用時期は幼穂発育期になるので、この時期の水管理は慣行に従い、入念に実施する。
- (5) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意する。
- (6) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には、吐き出させ直ちに医師の手当を受けさせること。

本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。

- (7) 本剤は、眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。入った場合には、直ちに水洗すること。
- (8) 散布の際は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
また、粉末を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

4. ビビフルフロアブル（プロヘキサジオンカルシウム塩 1.0%）

○毒 性：普通物

○適用作物と使用法

作物	使用目的	使用時期	使用方法
水稻	節間短縮による倒伏軽減	出穂10～2日前	茎葉散布

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

○使用上の注意事項

- (1) 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用直前に容器をよく振る。
- (2) 伸長を過度に抑制させないために、必ず所定の使用量、使用時期を厳守し、稲の茎葉部に均一に散布する。
- (3) 皮ふに弱い刺激性がある。
- (4) 散布むらに注意する。

5. ビビフル粉剤DL（プロヘキサジオンカルシウム塩 0.12%）

○毒性：普通物

○適用作物と使用法

作物	使用目的	使用時期	使用方法
水稻	節間短縮による倒伏軽減	出穂10～5日前	動力散粉機、粉剤用ホース使用

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME＞農薬＞登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用方法参照](#)）。

○使用上の注意事項

前項5を参照するが、飛散の少ない時間帯を選んで散布する。

2. 大豆の雑草防除

(1) 大豆は種前の雑草防除 [【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
草枯らしMIC (グリホサートイソプロピルアミン塩41%)	① 泥などで濁った水で本剤の調製をしない。 ② 展着剤の加用は必要ない。 ③ 雑草の発生前処理効果はなく、散布時の雑草の草丈(30cm以下)や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払うなどしない。 ④ 通常 2～14 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 ⑤ 処理後 6 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布する。 ⑥ 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草の葉面に均一に散布する。 ⑦ 飛散により薬液が作物に付着したり、水田への流入等により農作物に薬害を生ずるので、十分注意する。 2回以内
タッチダウン i Q (グリホサートカリウム塩 44.7%)	① 展着剤加用の必要はない。 ② 散布後、効果の発現までに一年生雑草で2～4日、多年草雑草で1～2週間を要するので、この間に地上部を刈取らない。 ③ 土壌で不活性化するので、雑草の発生前処理に効果はない。 ④ スギナの生育期を過ぎた時期での散布及びスギナが他雑草の中に埋まっているような条件では効果が劣るため、適期に散布する。 ⑤ 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。 ⑥ 散布後1時間後の雨でも効果を発現するが、激しい降雨の予想される場合は使用を避ける。 ⑦ 散布にあたっては希釈水量10ℓ/10aでは極少水量散布専用ノズル、25～50ℓ/10aでは少水量散布専用ノズルを使用する。 ⑧ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないように十分注意する。 2回以内
トレファノサイド乳剤 (トリフルリン44.5%)	① 播種後の土壌処理剤の施用を前提で実施する。また、帰化アサガオ類の種子は数年単位で生残し、出芽期間が長いので、複数回の茎葉処理や畝間・株間処理、スポット処理など複数の手段で防除を行う。 ② トリフルラリンは散布後、徐々に土中で気化・拡散してその効果を発現するが、太陽光や降雨の影響でも気化等が進むため、土壌混和処理はできるだけ播種直前に実施することが望ましい。 2回以内
バスタ液剤 (グリホサート18.5%)	① 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。 ② 薬液は雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 ③ 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候をよく見極めてから散布する。 ④ 散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないよう注意する。 ⑤ 展着剤は必要ない。 3回以内
プリグロックスL (ジクワット7.0%) (パラコート5.0%)	① 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。 ② 展着剤を加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。 ③ 散布液量は雑草の大きさや密度に応じて、適宜増減する。 ④ 散布は、なるべく低圧で、風向きなどに注意し、薬液が飛散しないよう十分注意する。特に、作物にかからないように、専用の噴口や散布器具を用いて散布する。 ⑤ 播種の約1週間前から前日までに使用する。 4回以内

[【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩48.0%)	① 泥などで濁った水で本剤の調製をしない。 ② 展着剤の加用は必要ない。 ③ 雑草の発生前処理効果はなく、散布時の雑草の生育量が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払うなどしない。 ④ 通常 2～7 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。 ⑤ 処理後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布する。 ⑥ 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草の葉面に均一に散布する。 ⑦ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意する。 2回以内

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用
方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

(2) 大豆は種後の雑草防除 [【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
※ エコトップP乳剤 (ジメナミド8.5%) (リニユロン12.0%)	①発芽後の雑草に対しては効果が劣るので、雑草発生前に時期を失ないように散布する。 ②砕土、整地はていねいに行い、種子が露出ないように覆土はできるだけていねいに行い、覆土深を2～3cm以上とする。 ③隣接作物にかかるとう薬害を生じるので、散布液がかからないよう注意して散布する。 1回
※ エコトップP細粒剤F (ジメナミド1.0%) (リニユロン1.4%)	①発芽後の雑草に対しては効果が劣るので、雑草発生前に時期を失ないように散布する。 ②砕土、整地はていねいに行い、種子が露出ないように覆土はできるだけていねいに行い、覆土深を2～3cm以上とする。 ③土壌が極端に乾燥している場合には効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいるときに使用する。 ④水はけの悪い圃場及び過湿条件では薬害のおそれがあるので使用をさける。 ⑤隣接作物にかかるとう薬害を生じるので、散布液がかからないよう注意して散布する。 1回
クリアターン細粒剤F (ベンチカーブ8%) (ベンディメタリン0.8%) (リニユロン1.2%)	①砕土、整地を丁寧に行う。 ②覆土は2～3cm確実に。行う。 ③土壌が極端に乾燥していれば効果が劣るので適度の水分を維持しているときに散布する。 ④雑草の生育が進むと効果は劣る。 ⑤排水を良くし過湿とならないようにする。 ⑥畑地一年生雑草対象 1回
サターンバアロ乳剤 (ベンチカーブ50%) (フロメトリン5.0%)	①覆土は2～3cmとし、よく整地して散布する。大豆は適湿であれば2～3日で芽が動くので播種直後に散布する。 ②発芽後の散布は絶対さける。 ③隣接作物にかからないようにする。
サターンバアロ粒剤 (ベンチカーブ8%) (フロメトリン0.8%)	④乳剤は土壌が乾燥している場合は希釈水を増す。 ⑤粒剤は土壌水分が不足した場合の効果が劣る。 ⑥大豆本葉2～4枚時の雑草は中耕培土を十分行ない防除する。 ⑦畑地一年生雑草対象 1回
サンダーボルト007 (グリホサートイソプロピルアミン塩30.0%) (ピラフルフェンエチル0.16%)	①散布器具、容器は除草剤専用のものを用いて、散布液を調製した容器及び器具は使用後石けん水などで十分洗浄する。 ②グリホサートを含む混合剤であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用する。 ③展着剤加用の必要はない。 ④激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 ⑤農作物や有用植物にかかるとう強い薬害を生じるので、風向きなどに十分注意してかからないように散布する。また、水田への飛散、流入等により水稻に薬害が生じるので十分注意する。 2回以内
ダイロンゾル (DCMU50.0%)	①一年生雑草を対象とする。 ②播種時には十分な播種深度を確保する。 1回
トレファノサイド粒剤2.5 (トリフルリン2.5%)	①土塊はできるだけ小さく砕き、整地をよくする。 ②覆土は2～3cmとする。 ③土壌が乾燥している場合は効果が劣る。 ④畑地一年生雑草対象（ツユクサ、カヤツリグサ、キク科、アブラナ科除く） 1回

[【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
フルミオWDG (フルミオキサジン50.0%)	①必ず大豆出芽前・雑草発生前に処理を行う。 ②イネ科及び多年生雑草には効果が劣るので、それらが優先する圃場での使用は避ける。 ③周辺作物に散布液が付着すると薬害を生じるので、風向きなどに十分注意してかからないように散布する。 ④水田に流入すると、稲が枯れるので十分注意する。 ⑤使用した器具類は、散布後速やかに水で洗浄すると共に、フルミオWDG洗浄剤を使用し洗浄する。 1回
プロールプラス乳剤 (シメナミトP6.7%) (ペンテイメタリン6.5%) (リニuron11.4%)	①雑草の生育が進むと効果が劣るので、必ず時期を失しないように散布する。 ②砕土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土深を2～3cm以上確保する。・散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候を見きわめてから散布する。 ③散布に当たっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用する。 ④本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので注意する。 ⑤散布に使った器具類は良く水洗する。 1回
日産ラクサー粒剤 (アラクロール4%) (リニuron1.04%)	①砕土、整地は丁寧に行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行い、覆土深を2～3cm以上とする。 ②土壌が極端に乾燥している場合には効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいる時に散布する。 ③水はけの悪い圃場及び過湿条件では薬害の恐れがあるので使用を避ける。 ④散布後に多量の降雨が予想される場合には薬害の恐れがあるので使用を避ける。 ⑤隣接作物に飛散すると薬害を生じるので、飛散しないよう注意して散布する。 ⑥砂質土の保水力の小さい圃場では使用しない。 1回
日産ラクサー乳剤 (アラクロール30.0%) (リニuron12.0%)	①一年生雑草を対象とする。 ②砕土、整地は丁寧に行い、覆土深を2～3cm以上とする。 ③多量の降雨が予想される場合や、加湿な土壌水分条件では使用を避ける。 ④砂質土の保水力の小さい圃場では使用しない。 1回
日農／日産 ラッソー乳剤 (アラクロール43%)	①覆土2～3cmとし、よく整地してから散布する。 ②雑草発生後は除草効果が劣るので雑草の発生直前までに散布する。 ③本剤はイネ科の雑草に効果が高い。 ④大豆本葉2～4枚時の雑草は中耕培土を十分行ない防除する。 ⑤畑地一年生雑草対象 1回

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

(3) 大豆生育期の雑草防除 [【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
アタックショット乳剤 (フルチアセトメチル2.0%)	①キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る場合があるので、それらが優占するほ場での使用は避ける。 ②発生前の雑草に対する土壌処理効果はないので、雑草の発生が揃ってから処理する。 ③処理時に展開していた葉に褐斑や縮葉等を生じ、生育が遅れることがあるので、気象条件、栽培条件等によりだいたいが生育不良の場合又は生育不良が予想される場合には使用を避ける。 ④本剤の散布適期は雑草生育期（草丈10cm以下）であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので時期を失しないように散布する。 ⑤イネ科雑草に対する除草効果は期待できないので、イネ科雑草対象の土壌処理剤または茎葉処理剤との体系で使用する。 ⑥処理後6時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候をよく見極めてから処理する。 ⑦改正時点（R7.11）で、製造中止となっている。 1回
ザクサ液剤 (グルホシネートナトリウム塩11.5%)	①散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。 ②雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので時期を失しないように、葉液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布する。 ③植物に葉液が付着すると葉害を生じるので、散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように十分注意する。 ④散布液を調製した容器及び散布器具は使用後十分に洗ってください。 3回以内
セレクト乳剤 (クレジメム24.0%)	①畑地1年生イネ科雑草対象、広葉雑草には効果が無いのでイネ科優占圃場で使用する。 ②やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1週間から2週間前後を要する。スズメノカタビラはさらに期間を要する。 ③広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 1回
大豆バサグラン液剤 (ベンザリジンナトリウム塩40.0%)	①土壌処理剤の効果が十分でない場合に使用する。 ②周辺の作物にかからないように注意する。 ③草種によって効果が異なるので、優占雑草を把握して使用する（タデ科、キク科、アブラナ科＞ナス科、ヒルガオ科） ④葉の斑点、色抜け、黄変、縮葉等一過性の葉害が生じる場合がある。葉害程度は品種によって異なり、減収となる場合もあるので使用品種の葉害程度を確認してから使用する。 ⑤葉害の程度は、大豆の品種によって異なり、フクユタカでは軽微であるが、スズオトメではやや大きい場合がある。 ⑥葉害が助長される場合であるので、他の除草剤や殺虫剤・殺菌剤との混用及び展着剤の加用は避ける。 ⑦有機リン剤：エチルチオメトン粒剤（播種時使用）との組み合わせ処理で、葉害が強く出た試験事例があるので留意する。 1回
ナブ乳剤 (セトキシメム20%)	①適用雑草、畑地1年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く。） ②広葉雑草、カヤツリグサ科には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用する。 ③雑草の発生が揃った時期に散布するのが効果的。 1回

[【目次に戻る】](#)

除 草 剤 名	使 用 上 の 注 意
バスタ液剤 (ガルホシネート18.5%)	①雑草生育期の茎葉散布を行う（畦間又は株間処理）。 ②大豆生育期の散布に当たっては、大豆にかからないように注意する。 ③薬液が付着した場合は周辺の作物にも被害を与えるので、飛散に注意する。 3回以内
パワーガイザー液剤 (イマザモックスアンモニウム塩 0.85%)	①展着剤は加用しない。 ②有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるため避ける。 ③雑草の発生始期から2葉期にかけて高い効果を示す。 ④砂土では使用しない。 ⑤処理後に降雨が予想される時には使用を避ける。 ⑥高薬量または初生葉期以降の散布では薬害が発生する恐れがあるので、使用量・使用時期を厳守する。 ⑦他作物に飛散しないよう十分注意して使用する。 1回
ポルトフロアブル (キサロホップエチル7.0%)	①広葉雑草およびカヤツリグサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草（スズメノカタビラ除く）優占圃場で使用する。なお、広葉雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な土壌処理型除草剤との体系で使用する。 ②イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約1週間を要する。 ③イネ科作物には薬害があるので、周囲にイネ科作物がある場合は、薬剤が飛散しないように注意する。 ④本剤の使用に当たっては、展着剤の加用は必要ない。 ⑤冬期の低温期や出穂期以降など、雑草の生育が停止している場合には、効果が劣ることがある。 ⑥激しい降雨の予想される場合は使用をさける。 2回
ロロックス (リニロン50.0%)	①だいたいの畦間・株間処理に使用する場合は、専用ノズルを使用する。〔推奨ノズル：TP-3235大豆畝間株間用口角ノズル（ヤマホ工業株式会社）〕また、噴口はできるだけ低くし、本薬にかからないように散布する。 ②覆土は細かく砕いて均一厚目にする。 ③激しい降雨の予想される場合は使用しない。 ④砂土では使用しない。 ⑤イネ科雑草およびカヤツリグサ科には効果が劣るため、これらに有効な除草剤を体系で使用する。 ⑥雑草茎葉兼土壌散布（株間、畦間処理）は1回以内
ワンサイドP乳剤 (フルアジホップP17.5%)	①畑地一年生イネ科雑草対象（スズメノカタビラ除く） ②イネ科優占圃場で使用する。 ③イネ科雑草には選択的な除草効果が見られるが、広葉、カヤツリグサ科雑草には効果がないので、それに有効な除草剤を体系で使用する。 ④雑草の発芽後、雑草の茎葉に散布する。 ⑤雑草の幼穂形成期を過ぎると効果が劣るので適期を失しないよう散布する。（雑草3～5葉期） 1回

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME ＞ 農薬 ＞ 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

3. 果 樹 の 雑 草 防 除

〔Ⅰ〕 かんきつ園雑草防除 [〔目次に戻る〕](#)

薬 剤 名	①ゾーバー	②バスタ液剤
効果の高い雑草	メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、ハコベ等の畑地1年生雑草	メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、カラスノエンドウ等の1年生雑草 スギナ、ギシギシ、ヨモギ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヤブガラシ、カラスムギ、ギシギシ、ヨモギ、イヌビユ、ハマスゲ、チガヤ、ネザサ等	ヤブガラシ、カラスムギ、ギシギシ、ヨモギ、イヌビユ、ハマスゲ、チガヤ、ネザサ等
効 果 の 発 現	春：約1週間 夏：2～3日	2～5日
抑 草 期 間	60日	40日～50日
薬 害	・砂質で透水性の大きな土壌の園では、薬害が生じるおそれがあるので使用は避けること ・苗木生産圃場では使用しない	枝葉に直接かかると薬害を生じるが、根部からの吸収害はない。
散 布 時 の 注 意 事 項	①茎葉処理の場合は非イオン系展着剤を加用し、よく雑草に付着するように散布する ②かんきつに対して根部からの吸収害はほとんどないが、マツ・スギ・マキの防風垣の近くでは薬害が生じるため使用しない ③本剤は茎葉処理及び土壌処理効果を有するため、雑草のないところにも均一にムラなく散布する。 ④雑草生育期散布では草丈20cm以下の時に散布する。 ⑤雑草草丈が20cm以上の場合や、雑草密度の高い場合は他の茎葉処理剤との同時処理をする ⑥適用作物以外の圃場には使用しない。 また付近の農作物、芝生、花卉類等にかからないように注意する	①グルホシネートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②冬期～春先の低温時期よりも、5月以降の高温期での効果が優れる。 ③安定した効果を出すためには草丈、草量の増加に伴い薬量を増すが、特に生育が進んだ多年草には1,000mlが必要。 ④高濃度散布の場合ほとんどの草種で地上部の枯殺は出来るが、宿根部からの再生が見られる。 ⑤散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めて散布する。
有 効 成 分	ターバシル40.0% DCMU40.0%	グルホシネート18.5%

薬 剤 名	③ラウンドアップマックスロード	④草枯らしMIC
効果の高い雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑草 チガヤ、ヨモギ、ギンギシ、カラムシ等の 多年生雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑 草、チガヤ、ヨモギ、ギンギシ、カラム シ等の多年生雑草
効果がでにくい 雑 草	ヒルガオ、ノビル等	スギナ、ヒルガオ、クローバー、ツユク サ、ノビル等
効 果 の 発 現	1年生：2～7日 多年生：2～7日	1年生：7～10日 多年生：10日前後
抑 草 期 間	1年生：60日～ 多年生：種子より再発芽するまで	1年生：60日～ 多年生：種子より再発芽するまで
薬 害	散布液が直接枝葉にかかるると薬害（落葉 後発芽する場合の葉は柳葉状となる）を 生じるが、根部からの吸収害はない。	散布液が直接枝葉にかかるると薬害（落葉 後発芽する場合の葉は柳葉状となる）を 生じるが、根部からの吸収害はない。
散 布 時 事 の 注 意 項	①グリホサートを含む農薬の総使用回数 は5回以内。 ②少量散布の場合は専用ノズルを用いて 雑草の表面に均一に散布する。 ③散布後効果の完成までにやや日数がか かるため、誤って再散布しない。 ④散布後1時間以内の降雨では効果を低 下させることがあるので天候を良く見極 めて散布する。	①グリホサートを含む農薬の総使用回数 は5回以内。 ②泥などで濁った水は効果を低下させる ので、本剤の調製には使用しない。 ③展着剤を加用する必要はない。 ④本剤は土壌中で速やかに不活性化する ので、雑草の発生前の散布は効果がな い。 ⑤通常2～14日で効果が発現し、効果の 完成までにさらに日数を要するので誤っ て再散布しない。 ⑥散布後6時間以内の降雨は効果を低下 させることがあるので、天候を良く見極 めて散布する。 ⑦土壌が流亡したり、くずれたりする恐 れのある所では使用しない。
有 効 成 分	グリホサートカリウム塩48.0%	グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%

[【目次に戻る】](#)

薬 剤 名	⑤タッチダウン i Q	⑥プリグロックス L
効果の高い雑草	1 年生雑草および多年生雑草	メヒシバ、エノコログサ、ハコベ、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、アメリカフウロ等の1年生雑草、スギナ、ヨメナ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヒルガオ、ノビル等	ハマスゲ、ヨモギ、ギシギシ、ヤブカラシ、コヒルガオ等の多年生雑草
効 果 の 発 現	1 年生雑草：2～4日 多年生雑草：7～14日	1～2日
抑 草 期 間	50日～60日	30～60日（但しスギナの抑制時期の場合は60日以上）
薬 害	葉や新梢、ひこばえ等の緑色部分に飛散すると薬害が生じる。	枝葉にかかると付着部分に薬害を生じる。
散 布 時 意 事 項	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は5回以内。 ②本剤は展着剤加用の必要はない。 ③散布後、効果の発現までに1年生雑草では2～4日、多年生雑草では1～2週間を要するので、この間は刈り取らないこと。 ④多年生雑草を地上部及び地下部まで含めて枯殺するには、雑草の生育盛期から生育終期または開花期前までに散布すること。 ⑤激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。 ⑥土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。	①草丈が高い場合は効果が落ち易く、100倍液の雑草生育初期の散布が望ましい。 ②長時間雑草の発生を抑えたい場合は土壌処理型剤との混用が必要。 ③薬害防止のため低圧散布とし、飛散を抑える方法をとる。展着剤で加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。 スギナの密度抑制を目的とした場合 ①2,000mL/100L（50倍液）で安定した効果がある。 ②つくしまたはスギナの発生を確認してから約2ヶ月後（4月下旬～5月下旬）草丈20～30cm時に散布する。
有 効 成 分	グリホサートカリウム塩44.7%	ジクワット7.0% パラコート5.0%

[【目次に戻る】](#)

薬 剤 名	⑦サンダーボルト007	⑧シンバー
効果の高い雑草	スベリヒユ、ヤエムグラ、エノコログサ、マルバツユクサ等の1年生雑草 タンポポ、アサガオ類、ギンギシ、カラムシ等の多年生雑草	ハコベ、オランダミミナグサ、カラスノエンドウ、アメリカフウロ、オオイヌノフグリ、ヤエムグラ、ノボロギク、スズメノカタビラ、メヒシバ、イヌビエ、マルバツユクサ等の1年生雑草
効果がでにくい雑草	スギナ、ツユクサ	イヌビユ、ツユクサ
効果の発現	1～3日	3～6日
抑 草 期 間	35～60日	30～70日
薬 害	果樹の枝葉に直接薬液がかかると薬害が発生する。下垂枝、ひこばえにもかからないよう注意する。	砂質で透水性の大きな土壌の園では、薬害のおそれがあるので使用は避けること。
散 布 時 事 項 注 意 事 項	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は5回以内。 ②展着剤は必要ない。 ③土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのあるところでは使用しない。 ④激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。	①茎葉処理の場合は非イオン系展着剤を加用し、よく雑草に付着するように散布する ②かんきつに対して根部からの吸収害はほとんどないが、マツ・スギ・マキの防風垣の近くでは薬害が生じるため使用しない ③本剤は茎葉処理及び土壌処理効果を有するため、雑草のないところにも均一にムラなく散布する ④茎葉処理の場合は気温20℃以上の高温条件で使用する ⑤雑草生育期散布では草丈20cm以下の時に散布する ⑥雑草草丈が20cm以上の場合や、雑草密度の高い場合は他の茎葉処理剤との同時処理をする ⑦みかん園での繰り返しの散布は裸地化の害を生じることがあるので夏期1回散布する ⑧適用作物以外の圃場には使用しない。また付近の農作物、芝生、花卉類等にかからないように注意する
有 効 成 分	グリホサートイソプロピルアミン塩30.0% ピラフルフェンエチル0.16%	ターバシル80.0%

[【目次に戻る】](#)

薬 剤 名	⑨ザクサ液剤
効果の高い雑草	メヒシバ、イヌムギ、ヤエムグラ、ツユクサ等の1年生雑草、ヨモギ、カタビラ、シロツメクサ、スギナ、ユウガオ、タンポポ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ススキ、チガヤ等
効 果 の 発 現	1～3日
抑 草 期 間	40～50日
薬 害	散布液が直接枝葉にかかると薬害（落葉後発芽する場合の葉は柳葉状となる。）を生じるが、根部からの吸収害はない。
散 布 時 事 の 注 意 項	①グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②展着剤は必要ない。 ③薬剤散布後、1時間程度降雨がなければ効果に大きな影響はない。
有 効 成 分	グルホシネートPナトリウム塩11.5%

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME ＞ 農薬 ＞ 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

〔Ⅱ〕 落葉果樹園雑草防除 [〔目次に戻る〕](#)

薬 剤 名	①カソロン粒剤6.7 (対象果樹：なし、もも、リンゴ)	②ラウンドアップマックスロード
効果の高い雑草	ギシギシ、ヨモギ、タンポポ、ヤブガラシ等の多年生広葉雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑草 チガヤ、ヨモギ、ギシギシ、カラムシ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ヒルガオ、スベリヒユ、クローバー、ワラビ、ネザサ、ノビル、チガヤ等	ヒルガオ、ノビル等
効果の発現		1年生：2～7日 多年生：2～7日
抑 草 期 間	春草の発生を抑制する。	1年生：60日～ 多年生：種子より再発芽するまで
薬 害	落葉果樹では根部からの吸収害はほとんどないが、マツ類、ヒノキ等では薬害を生ずることがある。	散布液が直接枝葉にかかるると薬害を生じるが、根部からの吸収害はない。
散 布 時 意 注 意 事 項	①イネ科に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優先する場所での使用は避ける。 ②新植後3年未満の果樹園では、使用しない。 ③施設内およびその周辺では使用しない。 ④散布後土壌混和しない。 ⑤果樹類に対しては開花期前後の使用は結実不良などを発生するおそれがあるのでさける。	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②少量散布の場合は専用ノズルを用いて雑草の表面に均一に散布する。 ③散布後効果の完成までにやや日数がかかるため、誤って再散布しない。 ④散布後1時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので天候を良く見極めて散布する。
有 効 成 分	DBN6.7%	グリホサートカリウム塩48.0%

[〔目次に戻る〕](#)

薬 剤 名	③草枯らしM I C	④タッチダウン i Q
効果の高い雑草	メヒシバ、エノコログサ等の1年生雑草 チガヤ、ヨモギ、ギンギシ、カラムシ等の多年生雑草	1年生雑草および多年生雑草
効果がでにくい雑草	スギナ、ヒルガオ、クローバー、ツユクサ、ノビル等	ヒルガオ、ノビル等
効 果 の 発 現	一年生：7～10日 多年生：10日前後	1年生雑草：2～4日 多年生雑草：7～14日
抑 草 期 間	一年生：60日 多年生：種子より再発芽するまで	50日～60日
薬 害	散布液が直接枝葉にかかるると薬害（落葉後発芽する場合の葉は柳葉状となる）を生じるが、根部からの吸収害はない。	葉や新梢、ひこばえ等の緑色部分に飛散すると薬害が生じる。
散 布 時 の 注 意 事 項	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②泥などで濁った水は効果を低下させるので、本剤の調製には使用しない。 ③展着剤を加用する必要はない。 ④本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前の散布は効果がない。 ⑤通常2～14日で効果が発現し、効果の完成までにさらに日数を要するので誤って再散布しない。 ⑥散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めて散布する。 ⑦土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。	①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。 ②本剤は展着剤加用の必要はない。 ③散布後、効果の発現までに一年生雑草では2～4日、多年生雑草では1～2週間を要するので、この間は刈り取らないこと。 ④多年生雑草を地上部及び地下部まで含めて枯殺するには、雑草の生育盛期から生育終期または開花期前までに散布すること。 ⑤激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。 ⑥土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しない。
有 効 成 分	グリホサートイソプロピルアミン塩41.0%	グリホサートカリウム塩44.7%

[【目次に戻る】](#)

薬 剤 名	⑤バスタ液剤（対象果樹：なし、かき、ぶどう、もも、うめ、びわ、りんご、く り、キウイフルーツ）
効果の高い雑草	メヒシバ、オヒシバ、エノコログサ、カラスノエンドウ等の1年生雑草、 スギナ、ギシギシ、ヨモギ等の多年生雑草
効果がでにくい 雑 草	ヤブガラシ、イヌガラシ、ハマスゲ、クズ、ネザサ等
効 果 の 発 現	2～5日
抑 草 期 間	40日～50日
薬 害	枝葉に直接かかると薬害を生じるが、根部からの吸収害はない。
散 布 時 注 意 事 項	<p>①グルホシネートを含む農薬の総使用回数は3回以内。</p> <p>②冬期～春先の低温時期よりも、5月以降の高温期での効果が優れる。</p> <p>③安定した効果を出すためには草丈、草量の増加に伴い薬量を増すが、特に生育が進んだ多年草には750mLが必要。</p> <p>④高濃度散布の場合ほとんどの草種で地上部の枯殺は出来るが、宿根部からの再生が見られる。</p> <p>⑤対象作物によって本剤の使用時期が異なるため、登録内容の確認をしっかりと行う。</p> <p>⑥散布後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めて散布する。</p>
有 効 成 分	グルホシネート18.5%

[【目次に戻る】](#)

薬 剤 名	⑥プリグロックスL	⑦サンダーボルト007
効果の高い雑草	メヒシバ、エノコログサ、ハコベ、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、アメリカフウロ等の1年生雑草、スギナ、ヨメナ等の多年生雑草	スベリヒユ、ヤエムグラ、エノコログサ、マルバツユクサ等の1年生雑草、タンポポ、コヒルガオ、ハマスゲ、ギシギシ、カラムシ等の多年生雑草
効果がでにくい雑草	ハマスゲ、ヨモギ、ギシギシ、ヤブガラシ、コヒルガオ等の多年生雑草	スギナ、ツユクサ
効果の発現	1～2日	1～3日
抑 草 期 間	30～60日（但しスギナの抑制時期の場合は60日以上）	35～60日
薬 害	枝葉にかかると付着部分に薬害を生じる。	果樹の枝葉に直接薬液がかかると薬害が発生する。下垂枝、ひこばえにもかからないよう注意する。
散 布 時 意 事 項	<p>①草丈が高い場合は効果が落ち易く、100倍液の雑草生育初期の散布が望ましい。</p> <p>②長時間雑草の発生を抑えたい場合は土壌処理型剤との混用が必要。</p> <p>③薬害防止のため低圧散布とし、飛散を抑える方法をとる。展着剤で加用する場合は、非イオン系展着剤を使用する。</p> <p>スギナの密度抑制を目的とした場合</p> <p>①2,000mL/100L（50倍液）で安定した効果がある。</p> <p>②つくしまたはスギナの発生を確認してから約2ヶ月後（4月下旬～5月下旬）草丈20～30cm時に散布する。</p>	<p>①グリホサートを含む農薬の総使用回数は3回以内。</p> <p>②展着剤は必要ない。</p> <p>③土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのあるところでは使用しない。</p> <p>④激しい降雨が予想される場合は、使用をさける。</p>
有 効 成 分	ジクワット7.0% パラコート5.0%	ピラフルフェンエチル0.16% グリホサートイソプロピルアミン塩30.0%

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME ＞ 農薬 ＞ 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

4. 茶 の 雑 草 防 除 [\[目次に戻る\]](#)

除草剤名	備 考
トレファノサイド粒剤 2.5 (トリフルラリン)	<ul style="list-style-type: none"> ・粒剤では適度の土壌水分下での効果が高く、重粘土壌は多めに散布する。 ・乳剤では幼茶園での処理後土壌混和をしない。年2回以内の散布とする。
トレファノサイド乳剤 (トリフルラリン)	
プリグロックスL (ジクワット・パラコート)	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草の生育初期に十分薬剤がかかるように散布する。 ・草丈が高く繁茂している園では、雑草の地際まで十分に散布する。 ・散布区内の雑草発生程度や生育程度によって適宜加減する。
バスタ液剤 (グルホシネート)	<ul style="list-style-type: none"> ・散布区内の雑草発生程度や生育程度などによって適宜加減する。
ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩)	<ul style="list-style-type: none"> ・少量散布の場合は専用ノズルを用いて雑草の表面に均一に散布する。

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用
方法参照](#)）。

[\[目次に戻る\]](#)

参 考 資 料

各種除草剤の特性 [〔目次に戻る〕](#)

処 理 区	バスタ液剤		プリグロックス L		刈り取り区	
処理前の草種 及び草丈 (cm)	アレチノギク	45～70	アレチノギク	50～70	アレチノギク	45
	アキノゲシ	40～55	アキノゲシ	40	アキノゲシ	35～40
	メヒシバ	30～40	メヒシバ	30～40	メヒシバ	45～55
	イヌタデ	45	イヌタデ	35	イヌタデ	35
	ツユクサ	30	ツユクサ	20	ツユクサ	8
	ナガハグサ	25～30	ギシギシ	8	チガヤ	10
処理年月日	92年7月30日		92年7月30日		92年7月29日	
効果発現日 (黄化)	7月31日		7月31日		—	
完全枯草日	8月10日		8月1日		—	
再生開始日	9月3日		8月31日		8月10日	
抑草期間	(34日)		(31日)		(11日)	
処理後43日目 (9/11)	メヒシバ 15～		メヒシバ 15～		メヒシバ 35～65	
草種及び草丈					アレチノギク 30	
					アキノゲシ 28～50	
	(15%以下)		(10%以下)		(85～90%以下)	
再生量 (g/2m ²)	80		130		2030	
茶樹に対する影響 (茶茎葉に薬剤が 付着した場合)	葉縁に茶褐色油浸状斑		茶葉は褐変落葉		—	
その後の再生	有		有		—	

植物生長調整剤使用方法

1. かんきつ植物生長調整剤 [\[目次に戻る\]](#)

○ 温州みかんの摘果、熟期促進（着色及び糖度の上昇促進）、浮皮軽減、夏秋梢伸長抑制

(1) 薬 剤 名

フィガロン乳剤（主成分……エチクロゼート）

（製品は主成分を 20% 含有）

(2) 使用方法

適用作物	使用目的		備考
温州みかん	全摘果		
	間引摘果		
	熟期促進	A. 間引摘果をかねて使用する場合	
		B. 熟期促進だけに使用する場合	
	浮皮軽減		
	夏秋梢伸長抑制		

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

(3) 使用上の注意点

ア 共通して注意すべき事項

- (ア) フィガロンは植物ホルモン剤であり、みかん以外の植物に対しても影響をおよぼすので、使用後の散布器具等は十分洗浄するとともに、残液の処分にも注意する。
- (イ) 全摘果以外の目的に使用する場合は、7～8年生以上の樹勢の安定した成木を対象とする。
- (ウ) フィガロンは原則として単剤で使用する。石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用は避け、本剤散布の約 10 日前から 1～2 日後の近接散布をさける。
- (エ) エチクロゼートを含む農薬の使用回数は 4 回以内（但し 1,000 倍希釈散布は 2 回以内）となっている。

イ 使用目的ごとの注意すべき事項

(ア) 全摘果の場合

- a 幼木で全摘果したい場合は樹全体に散布、成木で局部的に全摘果したい場合には摘果したい部分のみ散布するが、30℃近くの高温が予想される日を選んで散布する。
- b 早熟系品種は局部的全摘果とすることで効果が安定し、品質も向上する。
- c 本剤の 1,000～2,000 倍液とエスレル 10 の 2,000～8,000 倍液とを混合使用するとより効果的である。但しエスレル 10 の濃度が高い場合や樹勢が弱い場合には落葉を助長するので注意する。

(イ) 間引き摘果の場合

- a 摘果剤による効果は気温の影響を受けやすく、最高気温が 25～30℃では安定するが、これより低温では効果が劣る。
- b フィガロンで落果しやすい果実は果径 20mm 以下の小果で、25mm 以上となった果実は落果しにくいため、果実の肥大状況を見ながら必要な摘果程度となるよう散布時期を決定する。
- c 散布後、必ず手直しによる仕上げ摘果を行い、果実の均質化と結果量の調整を行う。
- d 散布後 5～7 時間以内の降雨により効果が低下することがあるが、再散布は落果過多を招く恐れがある。
- e 樹勢が強い樹（幼木、若木等）では効果が安定せず、一方、樹勢が弱い樹では落葉を助長し、落果過多となることがあるので使用しない。

(ウ) 熟期促進の場合

- a 熟期促進のみに使用する場合の第 1 回目散布は、摘果効果を示す場合があるので、希釈倍数や散布時期に注意する。
- b 着果量が適正結果量を大きく下回るような場合には効果が劣るので散布しない。
- c 夏芽の発生を抑制する傾向があり、夏芽を発生させたい場合には散布しない。

ウ 使用上の留意点

フィガロンの効果は散布日数及びその後の天候、樹勢、落葉比等で異なることがあるので、散布時期、濃度等を厳守しても、不測の事態を生じることがある。従って、散布前後の気象条件や樹の状態を出来るだけ詳しく記録しておき、原因究明の資料となるよう確保しておく。

○ 温州ミカン摘果剤、夏秋梢伸長抑制

(1) 薬剤名

ターム水溶剤（主成分……1-ナフタレン酢酸ナトリウム）
（製品は主成分を22%含有）

(2) 使用方法

適用作物	使用目的	備考
温州みかん	全摘果	全摘果、間引き摘果どちらか1回
	間引き摘果	
	夏秋梢伸長抑制	
	結果母枝の充実、着花促進	

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報」を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。

(3) 使用上の注意点

ア 共通して注意すべき事項

(ア) 本剤は植物ホルモン剤であり、微量で効果を示すので周辺作物にかからないようにする。

また使用後の散布器具等の洗浄は充分行うとともに残液の処分にも注意する。

(イ) 散布直後の降雨は効果が減ずる原因となるため、7時間以上降雨がみられない条件で散布する。

(ウ) 散布条件によっては薬効や薬害発生に影響が現れやすいため他剤との混用は避ける。またアルカリ性薬剤との近接散布で旧葉の落葉が助長される場合がある。

(エ) 1-ナフタレン酢酸ナトリウムを含む農薬の使用回数は4回以内（生理落果発生期は1回以内、生理落果発生後は3回以内）となっている。

イ 摘果剤

(ア) 一樹全摘果目的に使用する場合は樹全体に、局部全摘果目的に使用する場合は全摘果したい部位に散布する。

(イ) 間引き摘果目的に使用する場合は、薬液が葉先から滴らない程度にむらなく散布する。その際、樹冠上部にたっぷり、樹冠下部にはうすく散布する。

(ウ) 散布後は必ず仕上げ摘果を行い、目的とする着果量に調整する。

ウ 夏秋梢伸長抑制

(ア) 散布時期が遅くなると効果が低くなるため、樹体の観察を入念に行い発芽前に散布を行う。

(イ) ハウスミカンにおいて加温日に近接した散布は加温後の発芽率を低下させる恐れがあるため、最終散布は加温予定日から 40 日程度間隔をあける。

エ 結果母枝の充実、着花促進

(ア) 結果母枝の充実、着花促進の目的で使用する場合は、施設栽培以外では使用しない。

○ 中晩柑のへた落ち防止剤・後期落果防止剤

(1) 薬剤名

マデック E W (M C P B 20.0%)

(2) 使用方法

作物名	使用目的	備考
かんきつ	へた落ち防止	
	後期落果防止	
	冬期落葉防止	

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください ([アクセス方法については、巻末の使用法参照](#))。

(3) 使用上の注意

ア かんきつに使用するに当たり、下記に記載した使用目的と作物の組み合わせ以外にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用する。

へた落ち防止：伊予柑、甘夏、ネーブル、八朔、不知火、はれひめ、天草、はるみ、せとか、ボンカン、はるか、ブラッドオレンジ

後期落果防止：清見、八朔、アンコール、マーコット、日向夏、河内晩柑

イ 着色前および着色初期には使用しない（着色遅延）。

ウ 本剤は植物ホルモン剤であり、散布条件によって薬効・薬害に影響が現れやすいので他の薬剤との混用はさける。また散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見きわめてから散布する。

エ 使用の際は果梗部を中心に樹全体にむらなく、ていねいに散布する。

オ 一般作物にもごく微量でホルモン作用をあらわすので周辺作物にかからないように注意すること。また、使用後の散布器具等は十分洗浄すること。

カ へた落ち防止を目的として使用する場合、果実を長期間貯蔵したい場合にのみ使用する。

キ 極端に樹勢の強い樹及び樹勢の弱い樹または幼木では本剤の使用をさける。

ク 冬期落葉防止及びへた落ち防止に使用する場合は合計 1 回以内、後期落果防止に使用する場合は 2 回以内(但し、異なる目的には使用しない)。

○かんきつの花芽抑制・生理落果防止剤、温州みかんの浮皮軽減、不知火等の水腐れ軽減

(1) 薬剤名

ジベレリン粉末（ジベレリン 3.1%）・液剤（ジベレリン 0.5%）

ジャスモート液剤（プロヒドロジャスモン 5%）

(2) 使用方法

作物名	使用目的	備考
温州みかん	花芽抑制による樹勢の維持	
	落果防止	
	浮皮軽減	
不知火 はるみ ぽんかん 清見	花芽抑制による樹勢の維持	
	落果防止	
	水腐れ軽減	
かんきつ (温州みかん、不知火、はるみ、ぽんかん、清見を除く)	花芽抑制による樹勢の維持	
	落果防止	

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用法参照](#)）。[【目次に戻る】](#)

(3) 使用上の注意

ア 共通して注意すべき事項

- (ア) ジベレリンを含む農薬の生育期間中（前年の収穫後から当年の収穫まで）総使用回数は1回(温州みかん、不知火、はるみは3回以内)である。
- (イ) マシン油散布後は薬液が付着しにくいので、マシン油と混用しない場合は散布前に使う。また、アルカリ性農薬との混用および近接散布は避ける。
- (ウ) 調整した薬液はできるだけ当日中に使用する。

イ 花芽抑制による樹勢の維持

- (ア) 低温が続いた年（極端な低温の年）には、遅い時期の低濃度処理を心がける。
- (イ) 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しない。
- (ウ) 散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布すること。
- (エ) マシン油と混用する場合はジベレリンに加用の登録のある剤（クミアイアタックオイル）を使用し、マシン油の注意書きを確認した上で使用すること。

ウ 落果防止

- (ア) 生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により感受性が異なるので、初めての品種等に利用する場合は最寄の指導機関の指導を仰ぐか、事前に薬効等を確認して使用する。

エ 浮皮軽減

- (ア) 本剤処理により、着色が遅延することがあるため、ジベレリンの注意書きを確認した上で、収穫時期、貯蔵期間によって使用濃度を調整すること。

2. 落葉果樹植物生長調整剤使用方法 [【目次に戻る】](#)

○ ナシの熟期促進、果実肥大促進および新梢伸長促進

(1) 薬 剤 名

ジベレリンペースト（ジベレリン 2.7%）

(2) 使用方法

適 用 作 物	使用目的	使用回数	ジベレリンを含む農薬の総使用回数	備考
日本なし	熟期促進	1回	2回以内（果梗部塗布1回以内、新梢基部塗布は1回以内）	
	果実肥大促進			
	新梢伸長促進			

注）各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注）各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用](#)
[方法参照](#)）。

[【目次に戻る】](#)

(3) 使用上の注意

ア 果面に薬が付着すると果面の汚れ、薬害をおこすので注意して塗布する。

イ ペースト剤処理によって熟期が3～7日早くなるので収穫適期に注意する。

ウ 植物ホルモン剤であるから微量でも植物に影響を与えるので適用作物、使用時期・量・方法を厳守すること。

エ 人畜に対しては殆んど毒性はないが保管は冷暗所に子供の手のとどかぬ所に置く。

オ 肥培管理が不十分な園や天候不順の時は充分効果が得られない場合がある。また幸水では樹勢が低下した樹では裂果を助長することがあるので、このような園では使用しない。

カ 生理的障害の発生樹では使用しない。

キ ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回以内（果梗部塗布および新梢基部塗布はそれぞれ1回）。苗木の新梢伸長促進については3回以内。

○ ブドウの無種子化・果粒肥大促進剤

(1) 薬剤名

・ジベレリン粉末（ジベレリン 3.1%）・ジベレリン錠剤（4.55%）・フルメット液剤（ホルクロルフェニユロン 0.10%）

(2) 使用方法

適用作物	使用目的	備考
ブドウ巨峰系4倍体品種	無種子化果粒肥大促進	
	有核果粒肥大促進	
ブドウ2倍体欧州系品種	無種子化果粒肥大促進	

注) 各薬剤の農薬登録情報は、[「農薬登録情報提供システム（農林水産省）」](#)を参照してください。使用方法については、[章末の簡易マニュアル](#)を参照してください。

注) 各農薬の水産動物に関する注意事項については、FAMIC ホームページの、HOME > 農薬 > 登録・失効農薬情報を参照してください（[アクセス方法については、巻末の使用
方法参照](#)）。

[〔目次に戻る〕](#)

※ 生育調整剤の使用にあたっては、剤型やメーカーの違いによって、農薬の登録状況が異なる場合がありますので、登録内容を確認し、適正に使用すること。

(3) 使用上の注意

ア なるべく晴天の日を選んで処理する。

イ 使用方法、時期、濃度などを間違えないよう十分注意する。

ウ 無種子化処理は樹勢の強い樹に使用する。果房が大きくなるので処理前に花房先端を利用して小房に整房する。また、処理により果梗は硬くなるためジベレリンの使用濃度は薄めにする。なお、脱粒しやすくなるので収穫時に果粒が密着するように摘粒し、収穫後の調整・箱詰めはていねいに取り扱う。

エ フルメット液剤を用いて果粒肥大をねらう場合、果粒が大きくなりすぎて着色の遅れや糖度の低下など品質へ悪影響を及ぼす恐れがあるため、使用濃度は薄めにし、整房、摘房、摘粒などの管理を適切に行い適正結果量を厳守する。

オ ブドウ巨峰系4倍体品種、2倍体欧州系品種のジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内（但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内）。

カ ブドウ巨峰系4倍体品種、2倍体欧州系品種の無核栽培におけるホルクロルフェニユロンの総使用回数は3回以内（但し降雨等により再処理を行う場合は計5回以内）。

キ ブドウ巨峰系4倍体品種の有核栽培におけるホルクロルフェニユロンの総使用回数は1回（但し降雨等により再処理を行う場合は計2回以内）。

<ジベレリン及びホルクロルフェニユロン混用1回処理による無種子化・顆粒肥大促進>

① 巨峰系4倍体品種は、満開3～5日後の落花期におけるジベレリンとホルクロルフェニユロンの省力的な混用1回処理により、無種子化及び顆粒肥大促進が図れる。しかしながら、「巨峰」の特性を受け継いで度合いに品種間で差異がみられるので、これらの薬剤をはじめの品種に使用する場合は、最寄りの指導機関の指導を仰ぐか、自ら事前に薬効薬害を確認した上で使用すること。

② 処遇時期が遅れると有核果混入のおそれがあるので、処理時期は厳守すること。

③ 樹勢を強めに維持することや処理前の整房については、ジベレリン2回処理体系に準ずる。